

2-D-64

25-511

No 11202



明治

二年三月印行

佛國

法期滿得  
免篇

講義

司法省藏版



司法省

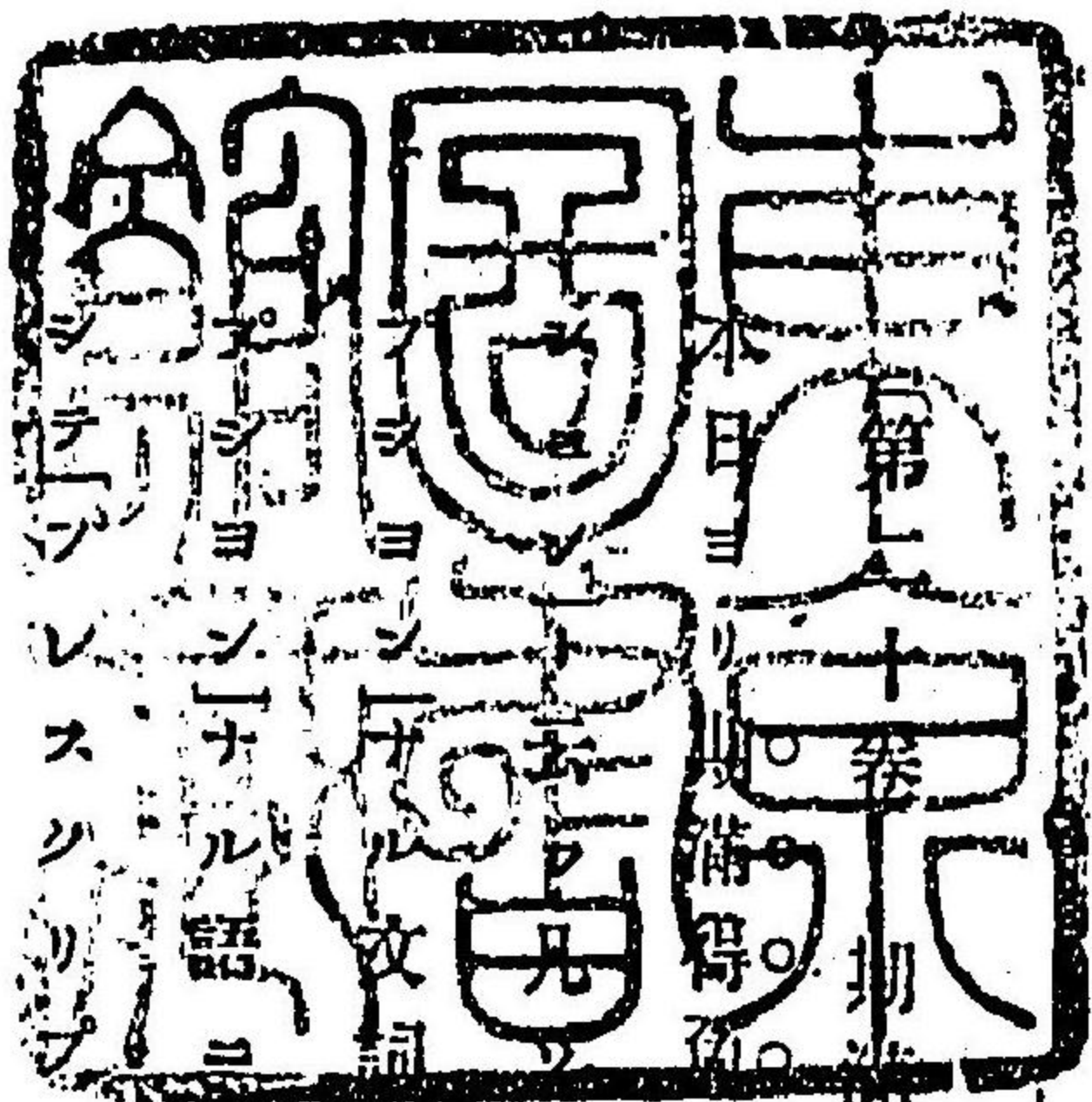
凡例

- 一 此書ハ佛蘭西法學大博士ボアソナード氏佛蘭西民法期滿得免篇ノ講義ニシテ即チ第二千二百十九條ニ起リ第二千二百八十一條ニ終ル
- 一 此書ハ當時講場ノ筆記ニシテ誤脱無キヲ保シ難ク文辭或ハ明徹ナラサル者有リ然レモ漫ニ改刪増補セス其旨義ヲ誤ラント恐レテナリ
- 一 各條全文ハ本書ニ備レルヲ以テ唯其條目ノミヲ掲シ第幾條乃至第幾條ト書スル者ハ數條ヲ連テテ混説セシナリ
- 一 文中〔チ施ス者ハ本書成文ノ抄出ニ係リ〕ハ原語（ハ譯字ナルヲ示セシナリ
- 一 主眼ノ字ハ○點ヲ施シ參照及ヒ改正ヲ論スル者其他注目ス可キノ

- 處ニハ、點ヲ施ス
- 一各條ノ講說前後倒置或ハ混加スル者有リ搜索ニ便ナラス故ニ條目ハ順次之ヲ掲ケ其下必ス某處ニ審ナルヲ明示ス
- 一譯字ノ左傍ニ原語ヲ附スル者ハ原語ニ通スル者其意義ヲ尋繹スルノ便ノ爲メニス

ボアソナ 佛蘭西民法期滿得免篇講義第一號明治十二年七月二十三日

一 瀬勇三郎 筆記



○權ヲ講說ス可シ佛蘭西語ニテ之ヲプレスクリップ  
 法律學士ヲ除クノ外ハ當今尙恐クハ其プレスクリ  
 ノ何ノ意タルヲ解スル者無カル可シ抑プレスクリ  
 ハ或ハ命令ト云フノ意有リ常ニ醫師ノ診斷書ヲ稱  
 シヨント云フハ蓋シ此義ニ基クナリ然レモ今本卷  
 ニ解説スル所ノプレスクリップシヨントハ決シテ此義ヨリ出テタル者ニ  
 非サルナリ

抑プレスクリップシヨントナル語ハ雅典語ヨリ傳來セシ者ナリ雅典ノ「プレ  
 ス」ト云フ語ハ佛蘭西ノ「アワント」ト云フ語ヨシテ雅典ノ「スクリプシヨ

二  
「ナル語ハ佛蘭西ノ「エクリール」ナル語ニ適スルナリ而シテ「アワソ」ト  
ハ前ト云フノ意ニシテ「エクリール」トハ書スルト云フノ義ナリ要スル  
ニ前書ト云フ事ナリ本卷ニ記スル所ノ「プレスクリプション」ナル語ハ  
蓋シ此義ヨリ出テタル者ナリ請フ試ニ之ヲ述ヘン  
往古羅馬ニ於テハ人民常ニ訴訟ヲ爲スニ直ニ通常ノ裁判所ニ至ラ  
ス先ツ其事件ヲ以テ「プレトール」ナル高等判官ノ所ヘ差出セリ而シテ  
此高等判官ハ自カラ其事件ノ情實ヲ驗査熟視シタル上ニテ其訴訟人  
ニ某裁判官ノ所ヘ至ル可キ旨ヲ命シ且共ニ其裁判官ノ執行ス可キ權  
限職務等ヲ定メタル證書當時之ヲ「フォルミユール」ト稱ヲ付與シ以テ  
之ヲ其指示シタル裁判官ニ差出サシメタリ  
高等判官自カラ其事件ヲ驗査スルニ當リ被告人ヨリ既ニ其義務ヲ辨  
濟シタル旨ヲ述ヘタル時ハ別段之ヲ其證書ニ記セサリシ然レモ若シ

之ニ反シテ被告人其原告人ノ要求ヲ拒ムニ原告人ノ強迫若クハ詐偽  
等ニ因リ其契約ヲ爲シタル旨ヲ述ヘタル時ハ高等判官ハ其證書ニ更  
ニ左ノ命令ヲ附加シ以テ其裁判官ニ送致セリ曰ク原告人ノ強迫若ク  
ハ詐偽無シト云フノ確證有ル時ハ被告人ニ其義務ノ執行ヲ命セヨ  
又被告人契約ヲ以テ其義務ノ釋放ヲ受ケタル旨ヲ述ヘタル場合ニモ  
尙其證書ニ左ノ附文ヲ加ヘタリ曰ク若シ其義務ノ釋放有リト云フハ  
確證無キ時ハ被告人ニ其義務ヲ執行ス可キ旨ヲ命セヨ  
又若シ被告人其原告人ノ要求ヲ拒ムニ既ニ長期間ヲ經過セシ旨ヲ以  
テシタル時ハ高等判官ハ其證書ノ冒頭ニ左ノ命令ヲ記セリ曰ク裁判  
官ヨリ先ツ既ニ三十年ヲ經過シタル事件ナルヤ否ヤヲ調査セヨ果シ  
テ三十年ヲ經過シタル事件ナル時ハ別段被告人ニ其義務ノ執行ヲ命  
スル勿レ

三

四

右ハ專ラ人權ニ管シテ述ヘタル者ナリ物權ニ管シテモ尙同一ノ命令ヲ記セリ何レノ場合ニ於テモ其長期間ヨリ出テタル抵拒法有ル時ハ必ス之ヲ其證書ノ冒頭ニ記載シタリ「プレスグリプション」ナル文詞ノ佛蘭西ニ傳來セシハ蓋シ此理由ニ因ル

若シ夫レ期滿得免ノ制ハ元來何ノ理由ニ基キテ成定セリヤト云フノ問題ハ彼ノ性法ヲ講説シタル時ニ既ニ諸君ニ辯明シタリ今又之ヲ約言ス可シ

凡ソ法律初學ノ徒ニシテ始メテ期滿得免ノ制ヲ觀ルニ當リ或ハ之ニ因テ其權利ヲ失ヒ或ハ之ニ因テ其權利ヲ得ルト云フニ至リ忽チ驚駭セサル者ハ蓋シ稀ナリ然レモ若シ一度其理由ヲ會得スル時ハ又忽チ其疑塊ヲ溶解セサル者無シ其理由ニ二箇有リ

第一法律ハ常ニ詞訟ノ蔓延スルヲ欲スル者ニ非ス就中事實ノ證據ヲ

得ルニ困難ナル場合ノ如キハ最モ法律ノ其訴訟ヲ忌ム所ナリ然リ而シテ既ニ長ク年月ヲ經過シタル後其訴訟ヲ始ムル時ハ常ニ多クハ其證據ヲ發顯スルニ難ク隨テ其裁判官ヲシテ其事實ヲ確認セシムルヲ得スシテ終ニ其訴訟ヲ却下スルニ至ラシムルヲ免カレサル可シ是即チ期滿得免ノ制ヲ設ケタル第一ノ理由ナリ

第二ハ長ク年期ヲ經過スルノ間ニハ或ハ其物件ノ買主ニシテ一旦其代價ヲ辨濟シタルモ既ニ其證書ヲ紛失シタルカ又一箇ノ義務ヲ擔當セシ者一旦其義務ヲ辨濟シタルモ既ニ其受取書ヲ失却シ竟ニ之ヲ證スルニ由シ無ク屢ニ重拂ノ不幸ヲ蒙ル者有ルヲ免カレズ且ツ其權利者ハ空ク三十年ノ長期間ヲ經過シ更ニ其義務ノ返還ヲ要求セサリシト云フハ實際上有ル可カラサルノ事ナリ是期滿得免ノ制ヲ設ケタル第二ノ理由ナリ此第二ノ理由ニ因テ之ヲ觀ルニ期滿得免ハ之ヲ一

五

六

箇ノ推測ト看做ス可キナリ是蓋シ第千三百五十條ヲ講說セシ時既ニ諸君ニ辯明セシ所ナリ

以上陳述シタル所ニ由テ之レヲ觀ル時ハ期滿得免ノ制ハ固ヨリ正當適理ノ者ナルヤ明ナリ日本ニ於テハ未ダ期滿得免ヲ成立シタル法律有ルヲ聞カスト雖モ苟モ裁判官タル者ハ常ニ之ニ據テ事實ノ推測ヲ爲シ以テ其詞訟ヲ判決スルモ更ニ不都合無カル可キナリ凡ソ期滿得免ノ効ニ二箇有リ一ハ期滿所得ノ權ニシテ他ノ一ハ期滿得免ノ權是ナリ以下諸箇條ニ付テ之ヲ詳說ス可シ

〔第一章 總規則〕

〔第二千二百十九條〕

本條ニハ則チ前ニ述ヘタル二箇ノ期滿得免ノ効ヲ記セリ一ハ物件ノ所有ヲ得ルノ効即チ期滿所得ノ權ニシテ他ノ一ハ義務ヲ免カルノ

効即チ期滿得免ノ權是ナリ而シテ期滿所得ノ權ヲ得ルニハ必ス先ツ法定ノ期間中其物件ヲ占有スルヲ要スルト雖モ期滿得免ノ權ヲ得ルニハ單ニ其法定ノ期間ヲ經過スルノミチ以テ足レリトス其他又法律上規定セル諸多ノ條件ヲ遵守セサル可カラズ漸次之ヲ説明ス可シ

〔第二千二百二十條〕

本條ハ單ニ期滿得免ノ權ニ適施ス可キ法章ニシテ期滿所得ニハ更ニ之ヲ當用スルヲ得可キ者ニ非ス

夫レ自カラ義務ヲ擔當スル者ハ豫メ其期滿得免ノ權ヲ拋棄ス可キ旨ヲ約スルハ實際上決シテ困難ノ事ニハ非サル可シ然レモ法律ハ常ニ義務者ヲ保護スルノ趣旨ナルヲ以テ殊更ニ本條ヲ掲ケテ豫メ其權利ヲ拋棄スルヲ許サスト云フ是全ク其義務者ヲ保護シタル主意ヨリ出タル者ニシテ實ニ適理ノ法條ナリト云ハサル可カラズ何トナレハ若

七

八

シ之ヲ許ス時ハ常ニ需用ニ乏キ所ノ義務者ハ究困ノ餘リ暗ニ其權利者ノ強迫ヲ受ケ已ムヲ得ス其期滿免除ヲ拋棄スルノ契約ヲ諾スルコト有ル可ク爲メニ大弊ヲ醸シ終ニ此重要ナル期滿得免ノ制ヲ空スルニ至ルヲ免レサル可キナリ

是ヨリ本條ハ期滿所得ニハ決シテ之ヲ適用ス可カラサル理由ヲ例示セン蓋シ期滿所得ノ權ヲ生スルハ左ノ三箇ノ場合ニ過キサル可シ

第一ハ茲ニ一箇ノ間地有リ或人之ヲ占領ス此場合ニ於テハ豫メ其期滿所得ノ權ヲ拋棄ス可キ旨ヲ約定スルト云フハ敢テ想像ス可カラサル事ナルヤ辯ヲ俟タスシテ明瞭ナリ

第二ハ甲者眞ノ所有者ニ非サル乙者ヨリ一箇ノ物件ヲ購求セリ此場合ニ於テモ亦買主甲者ヨリ豫メ其期滿所得ノ權ヲ拋棄ス可キ者ヲ約定セリト云フハ敢テ想像ス可カラサル事ナリ

第三ハ甲者眞ノ所有者ナル乙者ヨリ一箇ノ物件ヲ購求セリ此場合ニ於テハ尙更其期滿所得ノ權ヲ拋棄ス可キ者ヲ豫メ約定スルト云フハ敢テ想像ス可カラサル事ナリ然ラサレハ賣主ノ常ニ其買主ニ對シテ其物件所有ノ證書ヲ失セヨト約スルヲ得ルト云フニ至ル可シ  
以上ノ辯明ニ由テ之ヲ觀ルニ本條ハ特ニ期滿免除ノ爲メニ設ケタル者ニシテ期滿所得ノ爲メニハ實ニ不要ノ法章ナリト云フ可キナリ

〔第二千二百二十一條〕

本條ハ蓋シ前條第二段ノ法文ヲ明解シタル者ナリ夫レ豫メ期滿得免ノ權ヲ拋棄スルハ敢テ法ノ許サ、ル所ナリト雖モ之ニ反シテ既ニ得タル期滿得免ノ權ヲ拋棄スルハ其明諾ト默諾トヲ問ハズ明カニ法ノ認許スル所ナリ是亦適當ノ法章ナリト云ハサル可カラス

九  
茲ニ甲者自カラ若干ノ地面ヲ占有シテ既ニ三十年ノ期間ヲ經過セリ

乙者來リテ其土地ハ元來自己ノ所有物ナル旨ヲ告グ甲者ハ自カラ己  
レノ所有物ニ非サルヲ認メ以テ其期滿得免ノ權ヲ拋棄ス是決シテ法  
ヲ以テ防シ可カラサル事ナリ

又甲者所有者ニ非サル乙者ヨリ一箇ノ物件ヲ購求シ而シテ既ニ期滿  
得免ノ期間ヲ經過セリト雖モ後其非ヲ悔ヒ以テ其物件ヲ真ノ所有者  
ニ返還ス是亦敢テ防シ可カラサル事ナリ却テ之ヲ獎勵シテ可ナリ

又甲者自カラ負擔シタル義務ヲ更ニ辨濟スル無ク既ニ三十年ヲ經過  
シ以テ期滿得免ノ權ヲ得タリ然レモ其非ヲ悔ヒ以テ其義務ヲ辨濟セ  
リ是亦正直ノ所業ナリ敢テ法ヲ以テ之ヲ防シ可カラス

以上述ヘタル數例ニ由テ之ヲ觀ルニ既ニ得タル期滿得免ノ權ヲ拋棄  
スルヲ許スト云フハ實ニ正理ニ適合シタルノ法制ナリト云ハサル可  
カラス且ツ本條ハ其期滿所得ノ權ト期滿免除ノ權トヲ問ハス其ニ之

ヲ通行スルヲ得可シ  
本條ニ記スル所ノ黙諾ノ拋棄トハ何ノ場合ナル乎或ハ之ヲ認定スル  
困難無シトセズ例ヘハ土地取戻ノ訴ヲ受ケタル者更ニ期滿得免ノ權

ヲ得タル旨ヲ以テ其原告人ノ要求ヲ拒ム無ク其土地ノ收穫物ヲ悉ク  
收納スル迄ノ猶豫ノ期限ヲ請求シタル場合ノ如キハ自カラ黙諾シテ  
其期滿得免ノ權ヲ拋棄シタル者ト看做ス可キナリ

凡ソ期滿得免ノ權ヲ有スル者更ニ之ヲ主張スル無ク專ラ他ノ方法ヲ  
以テ其原告人ノ要求ヲ抵拒シタル時ハ最早黙諾シテ其權ヲ拋棄シタ  
リト爲スヲ以テ一般ノ慣例トス故ニ若シ一旦諸多ノ抵拒法ヲ述ベ盡

シタル後尙答辯ノ不足ナル時更ニ期滿得免ノ權ヲ以テ原告人ノ要求  
ヲ攻撃セント欲スル者ハ其答辯中添ヘテ其旨ヲ述フ可キナリ然ラサ  
レハ黙諾シテ既ニ其權ヲ拋棄シタル者ナリト看做サルハ事有ル可

シタル後尙答辯ノ不足ナル時更ニ期滿得免ノ權ヲ以テ原告人ノ要求  
ヲ攻撃セント欲スル者ハ其答辯中添ヘテ其旨ヲ述フ可キナリ然ラサ  
レハ黙諾シテ既ニ其權ヲ拋棄シタル者ナリト看做サルハ事有ル可



## 〔第一千二百二十二條〕

本條ハ必ス二箇ノ期滿得免ニ適施ス可キ法章ナリ夫レ期滿得免ノ權ヲ有スル者ニシテ自カラ之ヲ拋棄スルハ即チ其物件ヲ他人ニ讓渡ス者ナリ然リ而シテ凡ソ自己ノ物件ヲ他人ニ讓渡スニハ必ス其能力有ル者ニ非サレハ之ヲ爲ス能ハスト云フハ一般ノ法則ナリ是本條ノ設ケ有ル所以ナリ故ニ幼者ハ其期滿得免ノ權ヲ拋棄スルヲ得ス後見人モ亦然リ其幼者ノ爲メニ得タル期滿得免ノ權ヲ拋棄スルヲ得ス茲ニ一問題有リ自カラ幼者ニ代リテ訴訟ヲ受ケタル後見人其期滿得免ノ權ヲ以テ其原告人ノ要求ヲ拒ム無ク他ノ方法ヲ以テ之ヲ攻撃シ終ニ其訴訟ニ敗レタリトセンニ此ノ如キ場合ニ於テハ其決如何カス可キ乎本題ヲ決スルニハ必ス訴訟法第四百八十一條ニ依遵セサル可

カラズ即チ其幼者ノ代人ハ正シク其答辯ヲ爲サハリト云フヲ以テ尙其幼者ハ自カラテ丁年ニ達シタル後告知ヲ得タル日ヨリ二ヶ月間ハ此期滿得免ノ權ヲ主張スルヲ得可シ

## 〔第一千二百二十三條〕

若シ原被雙方ノ訴訟中裁判官ニ於テ被告人ノ義務ヲ免カレシ證據有ルヲ發見セハ假令被告人ノ之ヲ申立テサル時ト雖モ裁判官此證據ヲ引用シテ之ニ勝ヲ得セシムルニ何ノ妨ケカ有ランヤ例ヘハ原告人有リ被告人ヨリ贈遺ニテ得タル不動産ヲ占得セント訴フル時ノ如キ若シ其證書ノ公證ノ手續ヲ履行セシ者タラサルニ於テハ被告人ノ之ヲ引證スルト否トニ管セス裁判官ハ單ニ其職務ヲ以テ原告人ノ訴ヲ退クルヲ得可キナリ

人有リ占有者ノ財産ヲ以テ自己ノ所有物ナリト申立テ而シテ之ヲ取

戻サント訴ヘダリ蓋シ原告人ハ占有者其先人ノ之ヲ買取リシヲ知ラ  
 サリシト思ヒ之ヲ奇貨トシテ其取戻シヲ請求シタルナリ然ル時ハ被  
 告人ノ果シテ之ヲ知ル無ク從テ其先人ノ所爲ヲ申立テスト雖モ裁判  
 官他ノ確乎タル證據ヲ見出スニ至レハ之ヲ其裁判言渡書ニ記載シテ  
 被告人ニ勝ヲ取ラシムルモ可ナリ  
 原告人ノ既ニ盡サレシ義務ヲ得ント求メ又ハ既ニ相殺セシ義務ヲ得  
 ント求ムルカ如キ時モ亦右ト同一ナリトス然レモ裁判官ニ於テ訴訟  
 人ノ引證セサル事柄ヲ其裁判ノ證據ト爲ス事ハ本條ノ場合ニ於テ之  
 ヲ行フヲ得サルナリ即チ期滿得免ノ事ハ訴訟人ノ申立ツル時ノ外ハ  
 裁判官ト雖モ其職務ノミヲ以テ之ヲ證據ト爲ス能ハサルヲ謂フナリ  
 而シテ其理由ニ二箇有リ請フ之ヲ述ヘン  
 第一契約ノ成立ニ緊要ナル條件ノ如キ辨濟相殺賣買等ノ如キハ訴訟

人ノ申立テサル時ト雖モ裁判官ハ其有無虛實ヲ知ルニ於テ疑ハシカ  
 ラサル事有リ故ニ自己ノ職務ノミヲ以テ之ヲ證據ト爲スヲ得可キナ  
 リ然レモ期滿得免ノ如キハ元法律上義務ハ既ニ消散セシナラン所有  
 權ハ轉移セシナラント云フ等ノ推測ニシテ答辯ノ一方法タルカ故ニ  
 裁判官ハ固ヨリ義務ノ消散シ又ハ所有權ノ轉移シタルヲ訴訟人ノ申  
 立テサルニ明白ニ知り得ル無カル可シ然ルヲ若シ裁判官ニ之ヲ引用  
 スルヲ許ストセハ或ハ事實相違シ爲メニ訴訟人ハ間々害ヲ蒙ルニ  
 至ラン  
 第二訴訟人若シ期滿得免ノ事ヲ申立テント欲スレハ之ヲ申立ツルナ  
 ル可シ而シテ其之ヲ申立テサルハ自身ニ於テ其爲シタル事ノ確乎ナ  
 ラサルニ因レリ然ルニ若シ裁判官之ヲ證據ト爲スニ於テハ是訴訟人  
 ノ欲セサル所ノ事柄ヲ證據ト爲ス者ナリ豈之ヲ可ト云フヲ得ンヤ

六一

裁判官本條ノ規則ヲ顧リミスシテ訴訟人ノ申立テサル期滿得免ヲ以テ證ニ用フルニ於テハ其裁判官渡ハ控訴院ニ至テハ取消シト成リ大審院ニ至テハ破毀セラル、ニ至ラン

(第二千二百二十四條)

本條ハ第二千二百二十一條ノ意ヲ擴充シタル者ナリ

訴訟中ハ何時タリトモ期滿得免ノ事ヲ申立ツルヲ得可ク即チ其始メニ於テモ中頃ニ於テモ又終リニ於テモ雙方ノ者ハ總テ之ヲ申立ツルヲ自由ナリトス

法律ノ特ニ之ヲ明言スル所以ハ訴訟ノ答辯中何事ヲモ云ハサルニ先ンシテ申立ツ可キ者有ルヲ以テナリ此ノ如キハ裁判所ノ管轄違方式ノ無効等ノ者はナリ

訴訟人若シ訴訟ノ終リニ至ル迄期滿得免ノ事ヲ申立ツル無ク而シテ

敗訴訟ト爲リシ時ハ控訴院ニ至リテ更ニ之ヲ申立ツルヲ得可シ然レ

モ訴訟ノ終迄之ヲ申立テサル者二三ノ狀況ニ因テ期滿得免ノ方法ヲ放棄シタリト推測セラル可キ時例ヘハ義務ヲ負ヒシニハ相違無シト

雖モ既ニ之ヲ辨濟シ終レリト云ヒ以テ不完全ノ受取書ヲ差出シタル

時ノ如キハ最早期滿得免ノ事ヲ申立ツル能ハサル可キナリ何トナレ

ハ義務ヲ負ヒシニ相違無シト云フカ如キハ即チ義務有ルヲ承認スル

事ナレハ暗ニ期滿得免ノ利益ヲ放棄シタルト事相等シケレハナリ故

ニ初審裁判所ニ於テハ勿論假令控訴院ニ至ルモ最早決シテ之ヲ引川

スル能ハス隨テ辨濟ノ證據ノ完全ナラサル時ハ義務ヲ盡ス可キノ申

渡シテ受クルニ至ル可シ

期滿得免ノ利益ヲ放棄シタリト看做サレサルヲ欲セハ最初ヨリ義務

有ルヲ承認スルニ等シキ言詞ヲ吐カサルニ注意シ又ハ期滿得免ノ利

七一

益ヲ放棄セスト明言シテ他ノ證據ヲ述ヘ例ヘハ期滿得免ノ事ヲ申立ツルノ權有レトモ今之ヲ行フ無ク先ツ試ミニ之ヲ辨濟シタル事ヲ證セシト云フカ如クモサル可カラサルナリ

期滿得免ノ事ハ大審院ニ於テ之ヲ申立ツルヲ得ス是事實ヲ證スルノ方法ニシテ法律上ノ問題ニ非サルヲ以テナリ

〔第二千二百二十五條〕

法律ハ被告人ニ非サル者即チ其權利者若クハ他ノ期滿得免ニ付テ利益ヲ得可キ者ニ期滿得免ノ事ヲ申立ツル權利ヲ付與セリ是被告人ノ之ヲ申立テサル時ノミニ非ス其利益ヲ暗若シクハ明ニ放棄シタル時ト雖モ猶然リトス

余カ輩ハ先ツ第一ニ被告人ノ期滿得免ノ利益ヲ申立ツルヲ怠リシ場合ヲ見ントス此場合ニ於テハ其權利者又ハ其管係人ハ被告人ノ爲メ

之ヲ申立ツルヲ得可ク蓋シ被告人之ヲ申立ツルヲ怠リシ時ト雖モ敢テ之カ爲メニ其權利ヲ失フ事ハ有ラサルナリ此決議ハ唯本條ノミニ基ツク者ニ非ス第千百六十六條ニモ依レル者トス

本條及ヒ第千百六十六條ニ記載セラル者ハ義務者ノ其資産ヲ保存スルコ付テ利益有ル者トス然ルニ若シ義務者ニ於テ期滿免除ノ事ヲ申立ツル無キ時ハ其財産ハ必ス減少シ隨テ其權利者又ハ其他ノ管係人ノ害ト成ル可キナリ何トナレハ義務者ノ財産ハ權利者若クハ管係人ノ一般ニ目的トスル所ナレハナリ是法律上之ニ期滿得免ヲ申立ツルノ權ヲ付與スル所以ナリ

期滿得免ヲ申立ツルノ權ハ被告人ノ一身上ニ管スル者ナレハ被告人ノ外何人ト雖モ之ヲ申立ツルノ權ヲ行フ能ハスト思考スル者頗ル多シ然レモ法律ハ期滿得免ヲ申立ツルハ財産ヲ得又義務ヲ免カル、一

方法タルヲ以テ敢テ之ヲ被告人ノ一身上ニ管スル者トセス而シテ其權利者及ヒ關係人ニモ之ヲ申立ツルヲ得セシムルナリ

今ヤ被告人ノ明白ニ期滿得免ノ利益ヲ放棄シタル場合ヲ見ントス此場合ニ於テハ其放棄ノ權謀ニ出ツルヤ否ヤヲ看破セサル可カラス而シテ若シ其權謀ニ出テタルノ證明有ル時ハ權利者ハ第千百六十七條ニ因テ其放棄ヲ取消スヲ得可シ蓋シ權利者ハ如何ナル場合ニ在テモ其權利ヲ損害セラルハ所爲ヲ取消スノ權有レハナリ

今又被告人ニテ權謀無シテ期滿得免ノ利益ヲ放棄シタリト假想セシニ此時ニ於テハ權利者ハ其放棄ヲ取消シ而シテ期滿得免ノ事ヲ申立ツルヲ得可キヤ曰ク余ハ然ラスト思惟セリ夫レ義務者ノ之ヲ申立テサルハ其中分ニ疑ハシキ者有ルナリ而シテ義務者ノ自カラ疑フ者ハ權利者モ亦之ヲ疑ハサルヲ得ス然ルニ若シ權利者ニ於テ期滿得免

ノ利益ヲ申立ツルトセハ是義務者ノ自カラ疑フ所ノ事柄ヲ疑ハサルニ等シカル可ケレハナリ

以上陳述シタル三箇ノ場合中第一ノ場合ヲ除クノ外皆第千百六十六條ノミヲ以テ處分スルモ敢テ法律ノ精神ニハ違ハスト爲ス然ルニ第一ノ場合ハ單ニ此條ノミヲ以テ處分ス可カラサル者有ルナリ

蓋シ此場合ヲ此條ノミニ因テ處分セシムル時ハ或ハ人ヲシテ期滿得免ヲ申立ツルノ權ハ義務者ノ一身上ニ屬スル者ニテ義務者ノ外之ヲ行フヲ得スト思惟セシムルニ至ル可シ因テ本條ハ其權ノ義務者ノ一身上ニ管セサル者タルヲ云ハソカ爲メ特ニ權利者又ハ其他ノ關係人ハ之ヲ申立ツルヲ得ルト明言スルナリ

## 〔第百二十六條〕

期滿得免ハ所有權ヲ轉移スル者ナルカ故ニ凡ソ吾人ノ融通スルヲ得

可キ物件ニ非サレハ之ニ適セサル者トス而シテ其融通スルヲ得サル  
物件トハ法律上ニ於テ此クト定メタル者ナリ故ニ道路、河川、海灣、海港  
等ノ如キハ之ヲ占有スル幾年ノ久キニ及フト雖モ決シテ其所有權ヲ  
得ル無シトス

「コンメルス」譯本ニハ賣買ノ語ハ本來商業ノ意有リ又賣買ノ意有リト  
譯シタリ  
雖モ本條ニ於テ之ヲ賣買ト譯スルハ不可ナリ何トナレハ若シ之ヲ賣  
買ト譯スル時ハ其義狹キニ失シ彼ノ贈遺交換ニテノ轉移ヲ含蓄セサ  
レハナリ

〔第一千二百二十七條〕

國、公舍及ヒ邑ノ如キ總テ法律上ニ於テ無形人ト認メラル、者ハ平人  
ノ如ク諸般ノ財産ヲ所有シ其入額ヲ利スルヲ得可キナリ是國、州、邑ニ  
於テ森林、田畑等ヲ有スル所以ナリ但シ國、州、邑ノ財産ト雖モ唯之ヲ管

理スルノミニテ特別ニ入額ヲ生セサル者有リ此財産ハ即チ公領ト名  
ツクル者ナリ彼ノ森林、田畑ノ如キハ之ヲ國、州、邑ノ私有物ト云フ然リ  
而シテ公領ハ期滿得免ニテ所有權ノ轉移スル者ニ非ス期滿得免ニテ  
所有權ノ轉移スルハ唯私有物ノミトス今本條ニ國、州、邑ハ平人ニ等シ  
ク己レ人ノ爲メ期滿得免ノ申立ヲ受ケト有ルハ其私有物ニ付テ之ヲ  
云ヒシノミトス

既ニ期滿得免ノ申立ヲ受ケサルヲ得ストセハ亦之ヲ申立ツルノ權無  
カラサルヲ得ス然ラズンハ國、州、邑ハ財産ヲ得テ之ヲ私有スルヲ得ス  
ト云フニ等シカル可ケレハナリ因テ國、州、邑モ財産ヲ占有シタル時又  
ハ其義務ノ三十年間ヲ經過シタル時ハ期滿得免ノ事ヲ申立ツルヲ得  
可シ

以上余カ輩ノ陳述セシ所期滿免除ニモ又期滿得權ニモ適スル者トス

是ヨリ余カ輩ハ此二者ヲ別々ニ講究ス可シ

〔第二章 占有ノ事〕

本章ヨリ以下ノ箇條ハ同時ニ期滿免除ト期滿得權トノ規畫スル者有  
リト雖モ要スルニ大抵ハ飛離レテ此二者ヲ別々ニ披陳セリ即チ第二  
章第三章ハ總テ期滿得權ノ事ヲ述ヘ第四章ノ第一款及ヒ第二款ハ期  
滿免除ノミニ管スル第二千二百四十九條、第二千二百五十七條、第二千  
二百五十八條及ヒ第二千二百五十九條ヲ除クノ外ハ皆期滿免除ト期  
滿得權トノ二者ニ普通ス第五章ノ第一款及ヒ第二款モ亦然リトス但  
シ第二千六十三條及ヒ第二千六十四條ハ期滿得免ノミニ管スル者ト  
ス而シテ第三款ハ期滿得權ノミニ適シ第四款ハ第二千二百七十九條  
以下ヲ除クノ外ハ悉ク期滿免除ニ管セリ但シ第二千二百七十九條及  
ヒ第二千二百八十條ハ期滿得權ノミニ通シ其次條ハ期滿得免及ヒ期

滿得權ノ二者ノ總則ナリトス

余カ輩ハ今ヨリ期滿得權ニ付テ講説ヲ爲サントス

余是迄諸君ニ告クルニ期滿得權ハ時間ノ經過ト所有者ノ不行トノミ  
ヲ以テ足レリトセズ而シテ其成ルハ多シハ他人ノ占有ニ基ツク可キ  
旨ヲ以テセリ又附着ノ權ヲ講スル時ニモ占有ハ事實ナルカ將ク權利  
ナルカト云フノ問ヲ起シ而シテ是ハ權利ナリト云ヒタリシ蓋シ占有  
ハ一見シタル所ニテハ全ク一箇ノ事實ノ如ク見ユルト雖モ其權利ヲ  
生スル點ナカラサルカ故コ人多ク之ヲ權利ト看做セリ

〔第二千二百二十八條〕

占有ノ解義ハ本條ニ之ヲ記載セリ曰ク「占有トハ自カラ物件ヲ保有シ  
或ハ權利ヲ行ヒ又ハ名代人ヲシテ物件ヲ保有セシメ或ハ權利ヲ行ハ  
シムルヲ云フ」ト

保有スルトハ佛蘭西語ノ「デツタンション」ニシテ物件ノミニ管スル者ナリ權利ニ付テ云フノ語ニ非サルナリ故ニ物件ヲ保有スルト云フモ權利ヲ保有スルト云フヲ得ス而シテ保有スルトハ畜ニ物件ヲ使用スルノミニ非ス尙之ヲ自己ニ掌握シテ勝手ニ取扱ヒ即チ管理スルヲ云フナリ例ヘハ田畑ノ如キ之ヲ保有スト云フ時ハ其入額ヲ得ルモ又之ヲ耕スモ又之ヲ通路トスルモ總テ自由ナリトス

又本條ニ行フト有ルハ「ジュニイサンス」ノ語ニテ即チ利スルノ謂ヒナリ此語ハ本條ニ於テハ權利ニ管シテ物件ニ管セサルナリ然ラハ則チ物件ノ占有ハ物件ノ保有ナリ而シテ權利ノ占有ハ權利ヲ行フ事ト知ル可シ物件ヲ保有シ權利ヲ行フハ必スシモ自カラ爲スヲ要セサル者ナリ夫レ一人ニシテ萬般ノ事ヲ擔任スルハ何人ト雖モ亦之ヲ爲スニ難カル可キナリ因テ人ヲ撰テ己レニ代ラシム之ヲ名代人ト云フ故ニ占

有者モ亦其人ヲ撰テ物件ヲ保有シ若クハ權利ヲ行ハシムルモ可ナリ唯要スル所ハ之ヲ自己ノ名前ニ於テセシムルニ在ルノミ

物件若クハ權利ヲ占有シテ期滿得權ヲ得ントスルニハ唯占有スルヲ以テ足レリトセス蓋シ期滿得權ノ基本タルヲ得可キ占有ニハ數箇ノ條件有ルヲ要セリ而シテ其條件ハ次條ノ擧クル所トス

〔第二千二百二十九條〕

夫レ占有ハ繼續シ破斷セス平穩ニシテ公ケニ疑ハシカラス且ツ所有者ノ名義ヲ以テ行フヲ要トス

余カ輩ハ最終ノ條件即チ所有者ノ名義ニ於テスト云フ條件ヨリ説キ始メントス蓋シ所有者ノ名義ニ於テスト云フハ法律ニ循ヒ所有者ノ分限ヲ以テ占有スル物件ノ上ニ所有者タル事ヲ行フノ謂ヒナリ余ノ此條件ヲ先ニシ他ノ條件ヲ後ニ説ク所以ノ者ハ此條件ハ最も重要ナ



ル者ニシテ之レ無ケレハ他ハ成立スルヲ得サルノ條件有ルニ因レリ」  
 此條件ヲ説クニハ先ツ所有者ノ名義ヲ以テ占有セサル者ハ何等ノ人  
 ナルヤヲ講究セサル可カラス夫レ所有者ノ名義ヲ以テ占有セサル者  
 ハ借家人、借地人、受託人、入額所得者等ナリ是等ノ人ハ物件ヲ占有スト  
 雖モ自カラ所有者ノ如ク之ヲ占有スルニ非ス所有者ノ權ヲ承認シテ  
 之ヲ占有スルナリ佛蘭西語ニ之ヲ「プレケール」(請願)ノ名義ヲ以テスル  
 占有者ト云フ而シテ其請願ノ名義ノ事ハ本章ノ第二千二百三十六條  
 ト第二千二百三十九條トニ於テ之ヲ載セリ此請願ナル原語ノ「プレケ  
 ール」ハ羅典語ノ「プリエレー」ヨリ生シタル者ニテ乞求シ請願スルノ意  
 ナリ即チ之ヲ占有ニ附加シテ云ハ、所有者ニ願テ之カ所有ノ物件ヲ  
 占有スルヲ云フニ在リトス

## 〔第二千二百三十條〕

本條ハ請願ノ名義ノ事ニ管スル者ナリ

人有リ物件ヲ占有スル時ハ何ヲ以テ之カ自己ノ爲メニシ又ハ所有者  
 ノ名義ニ於テスルヲ知ル可キヤ語ヲ變シテ云ハ、法庭ニ於テ所有者  
 ノ名義ニ於テセント否トノ事ハ誰ノ證ス可キ者ナルヤ原告人即チ取  
 戻シテ爲ス者ヨリ占有者カ所有者ノ名義ニ於テセサリシト證ス可キ  
 ヤ將テ被告人即チ占有者ヨリ所有者ノ名義ニ於テ占有シタリト證ス  
 可キヤ如何

此問題ニ付テハ法律上其答有リ曰ク最初占有者ニテ自己ノ爲メニシ  
 又ハ所有者ノ名義ヲ以テシタルニ於テハ其後モ同一ノ名義ヲ以テシ  
 タリト推測ス可ク但シ別段ノ證據有ル時ハ此限ニ在ラスト然ラハ則  
 チ法律ハ占有ノ初ヲ問フテ其他ニ及ハサルナリ故ニ苟モ最初所有者  
 ノ名義ヲ以テ占有シタルニ於テハ法律ハ其占有者ノ爲メ一ノ推測ナ

○三

ル證ヲ定メ何時迄モ之ヲ所有者ノ名義ニテ占有セル者ト爲スナリ是  
ヲ以テ法庭ニ於テモ又法庭外ニ於テモ最初所有者ノ名義ニ於テセシ  
占有者ハ其後モ引續テ同一ノ名義ヲ以テスル者ト看做サル、ニ因リ  
原告人即チ取戻シヲ爲ス者ヨリ占有者ハ所有者ノ名義ヲ以テセサリ  
シト證セサルヲ得ストス

〔第二千二百三十一條〕

本條モ亦前條ト均シク占有者ノ最初ニ如何ナル名義ヲ以テシタルヤ  
ヲ問ヒ而シテ反對ノ證據無キ限りハ其最初ノ名義ニテ引續テ占有ス  
ル者ト推測スルナリ故ニ最初他人ノ爲メ物件ヲ占有シタル者即チ借  
地人借家人又ハ受託人ノ如キハ皆同一ノ名義ニテ占有スト看做サル  
ルナリ余カ輩ハ第二千二百三十八條ニ於テ此名義ハ占有者ノ存意ノ  
ミヲ以テ變更スルヲ得ス而シテ之ヲ變更スルニハ法律上ノ所爲有ル

ヲ要スル所以ヲ見ル可シ

ボアソナ 佛蘭西民法期滿得免篇講義第三號 明治十二年七月三十一日

本日ハ尙物件占有ノ要件ヲ講説ス可シ

一瀬勇三郎 筆記

〔第一千二百三十二條〕

本條ニ曰ク純粹ノ隨意ノ所業及ヒ單一ノ暗許ノ所業ハ占有ノ權ヲ得ルノ理由ト爲スヲ得ス又期滿得免ノ權ヲ得ルハ理由ト爲スヲ得スト本條ニハ甚々曖昧ナル文詞ヲ記セリ先ツ單一ノ暗許ノ所業トハ果シテ何物ナル乎是實ニ分明ナラサル用語ナリ余カ思考スル所ニ因レハ法律ハ此文詞ヲ以テ彼ノ所有主ノ名義ト云フノ事柄ヲ補足セント欲シタルナリ故ニ他人ノ物件ヲ其所有主ノ暗許ヲ以テ占有スル者ハ決シテ其期滿得免ノ權ヲ得ル能ハサル可シ譬ヘハ二人相隣スル者一人ハ狹隘ノ土地ニ位シ他ノ一人ハ空廣ノ餘地ヲ有スルカ如キ場合ニ在

リテハ狭地ヲ有スル者ハ其廣地ノ所有主ノ暗許ヲ以テ自カラ其土地ノ一部分ヲ使用スル有ルハ屢其例ヲ見ル所ナリ然レモ是全ク其所有主ノ暗許ニ據ルヲ以テ幾歲月ヲ經過スト云フモ更ニ其占有權ヲ得ル能ハス又其期滿得免ノ權ヲ得ル能ハサル可キナリ

又〔純粹ノ隨意ノ所業〕トハ果シテ何レノ所業ヲ指示シタル者ナル乎是亦實ニ分明ナラサル文詞ナリ余カ考案ニテハ法律ハ之ヲ以テ其所有主ノ隨意ニ執行セサリシ所業ヲ指示セント欲シタル者ナリ

夫レ所有主タル者ハ自カラ其所有權ヲ執行スルモ又之ヲ執行セサルモ自カラ家屋ヲ建築スルモ又之ヲ建築セサルモ自カラ樹木ヲ培養スルモ又之ヲ培養セサルモ總テ是等ノ諸件ハ自己ノ隨意ニ之ヲ處分スルヲ得可シ因テ假令其所有主ニシテ自カラ其權利ヲ執行セサル有リト雖モ之ヲ以テ他人ヨリ其期滿得免ノ權ヲ得ント述フルヲ得ス所謂

〔隨意ノ所業〕トハ蓋シ此ノ如キ場合ヲ指シタル者ナリ要スルニ本條ハ全ク無用ノ法章ト斷定シテ可ナリ假令要用ナリト爲スモ其行文ノ穩當ナラサルハ實ニ立法官ノ失當ナリト云ハサル可カラス

〔第二千二百三十三條〕

本條ハ前第二千二百二十九條ニ記載セル〔平穩ニ其物件ヲ占有ス可シ〕ト云フノ要件ニ管スル者ナリ凡ソ暴行ヲ以テ他人ノ物件ヲ占有シタル者ハ固ヨリ平穩ニ之ヲ占有シタリト云フ可カラサルカ故ニ其占有ヲ以テ期滿得免ヲ得ルノ理由ト爲スヲ得ス然レモ若シ其暴行ヲ止メタルニ於テハ其止メタル時ヨリ直チニ當然ノ占有ヲ得タル者トス是本條ノ明記スル所ナリ蓋シ暴行ヲ以テ他人ノ物件ヲ占有スルハ當今開明ノ國ニ在リテハ甚ク稀ナリト雖モ兵亂等ノ事有ルニ際シテハ或ハ其例ナキニ非サルナリ

〔第二千二百三十四條〕

本條及次條ハ共ニ間斷無ク其物件ヲ占有ス可シト云フノ要件ニ管スル者ナリ夫レ期滿得免ノ權ヲ得ルニハ必ス法定ノ時間中始終繼續シテ其物件ヲ占有セサル可カラズ若シ其占有ヲ斷絶スル時ハ必ス又更ニ其期滿得免ノ權ヲ得ルノ時間ヲ始メサル可カラズ間斷無ク其物件ヲ占有ストハ即チ是ナリ

茲ニ一問題有リ訴訟人雙方ノ中何レノ者ヨリ其證ヲ爲ス可キ乎原告人ヨリ其占有ニ間斷有リシヲ證ス可キ乎將タ被告人其占有ニ間斷無キヲ證ス可キ乎本條ハ特ニ此問題ヲ決定センカ爲メニ揭示セシ者ニシテ大ニ其占有者ヲ益スルノ法章ナリ曰ク現在ノ占有者以前其物件ヲ占有シタルノ證ヲ爲ス時ハ其間ノ時ニ於テモ亦間斷無ク之ヲ占有シタリシト看做ス可シ但シ其反對ノ證有ル時ハ格別ナリトス下故ニ

現在ノ占有者ハ其占有ヲ始メ終メテ證スルノミチ以テ足レリトス其間ノ時ノ證據ハ所有者自カラ之ヲ爲サル可カラズ

〔第二千二百三十五條〕

物件ヲ占有スル時間中ニ占有者相續人ヲ遺シテ死シタル時ハ之ヲ其占有ニ間斷有ル者ト看做ス可キ乎本條ハ即チ此問題ヲ決定センカ爲メニ設成セシ者ナリ其文自カラ簡明ナルヲ以テ別段講説スルニ及ハス要スルニ其占有ニ間斷有ル者ト看做ス可カラスト云フニ在リ

占有ノ條件中右ニ述ベタル者ノ外尙説明ス可キ者有リ  
法定ノ時間ヲ除棄スル無ク其物件ヲ占有スルヲ要ス是亦其占有ノ條件中ノ一ナリ凡ソ他人ノ物件ヲ占有スル時間ノ中途ニシテ其期滿得免ノ權ヲ破棄スル爲メノ諸件ヲ爲スコト有リ今其最モ單簡ナル一例ヲ舉示センニ或ル不動産ノ占有者之ヲ占有セシヨリ未タ三十年ヲ經過

セサル中ニ眞ノ所有者ヨリ其物件取戻シノ訴訟ヲ受ケ而シテ其訴訟中既ニ三十年ノ期限ヲ經過セリ此場合ニ於テハ假令其占有者ハ間斷無ク其物件ヲ占有セシモ尙期滿得免ノ權ヲ得ル能ハス何トナレハ其期限ヲ除棄シタル所業即チ眞ノ所有者ノ訴訟有リシヲ以テナリ所謂時間ヲ除棄スルトハ即チ是ナリ後段第四章ニ至リ更ニ之ヲ詳論ス可シ

又公然ニ其物件ヲ占有ス可シト云フモ亦其條件ノ一ナリ法律上別段之ヲ詳説シタル條無シ凡ソ物件ヲ所有スル者ハ公ケニ之ヲ保有シ敢テ隱ス無キヲ以テ常トス因テ其物件ノ占有者タル者モ亦必ス公然ニ之ヲ占有スルニ非サレハ自カラ所有者タルノ推測ヲ受クル能ハス且ツ其所有者モ亦自カラ訴訟ヲ爲ス可キ者ヲ詳認セサル可カラス然レモ其占有ヲ公ニセサル時ハ更ニ之ヲ詳知スルニ由無シ

### 第三章 期滿得免ノ權ヲ得ル能ハサル原由

此標題ヲ一見スル時ハ本章ノ記スル所ハ右ニ述ヘタル占有ニ必要ナル總テノ條件ニ管スル者ノ如クナレモ其實決シテ然ラサルナリ本章ハ獨所有者ノ名義ヲ以テ其物件ヲ占有ス可シト云フノ條件ニ管スルノミニシテ全ク其反對ノ場合即チ所有者ノ名義ニ非シテ其物件ヲ占有シタル場合ヲ揭示シタル者ナリ其詳細ハ本章ノ終ヲ俟テ之ヲ了知ス可シ

### 〔第一千二百三十六條〕

本條ニ記載セル土地ヲ賃借スル者物件ノ附託ヲ受ケタル者入額所得者及ヒ其他後見人若クハ夫タル者ノ如キ自己ノ所有ニ非サル名義ヲ以テ他人ノ物件ヲ占有スル者ハ元來其他人ノ爲メニ之ヲ占有スルヲ以テ幾年月ヲ經ルト雖モ更ニ期滿得免ノ權ヲ得ル能ハサル可キナリ

○四 [第二千二百三十七條]

凡ソ人ノ相續人タル者ハ其先人ノ權利ヲ受クル者ナルヲ以テ其先人ノ有セサル權利ヲ得ル能ハサルハ理ノ當然ナリ因テ其先人自カラ他人ノ爲メニ占有シタル物件ニ付テハ其相續人モ亦期滿得免ノ權ヲ得ル能ハサル可キナリ

本條ハ單ニ其所有ニ非サル名義ヲ以テ其物件ヲ占有スル者ノ相續人ノミヲ記スルヲ以テ彼ノ第二千二百三十五條ニ揭示セル如キ者トハ大ニ異ナル所有リ宜シク注意スヘキ事ナリ

[第二千二百三十八條]

本條ハ第二千二百三十六條ノ例外ナリ本條ニ二箇ノ場合ヲ揭示セリ第一ハ人ノ爲メ其物件ヲ占有シタル者又ハ其相續人他人ノ所爲ニ因リ其物件ヲ有スル名義ノ更改シタル時

第二ハ自カラ其所有者ノ權ヲ拒ムニ因リ其物件ヲ有スル名義ノ更改シタル時

茲ニ甲者有リ丙者ノ乙者ヨリ借用セシ家屋ヲ更ニ買受ケタル後既ニ三十年ノ期限ヲ經過セリ甲者ハ期滿得免ノ權ヲ以テ其家屋ノ所有權ヲ得可シ是即チ第一ノ場合ノ適例ナリ又甲者ハ乙者ノ家屋ヲ借用シ常ニ其家賃ヲ辨償セリト雖モ後ニ至リ其所有者ノ權ヲ拒ミ家賃ヲ拂フヲ止メタリ而シテ其所有者モ亦自カラ默シテ敢テ之ヲ要求セズ甲者ハ期滿得免ノ權ヲ以テ其家屋ノ所有權ヲ得可シ是即チ第二ノ場合ノ適例ナリ

[第二千二百三十九條]

本條ハ其行文自カラ簡明ナルヲ以テ別段之ヲ説明セズ

一四 以下第二千二百四十條及ヒ第二千二百四十一條ハ別段有益ノ法章ニ

二四

非サルヲ以テ之ヲ刪除スルモ支障無カル可シ

ボアソナ 佛蘭西民法期滿得免篇講義第四號

明治十二年八月一日

大島三四郎 筆記

〔第四章 期滿得免ノ經過ヲ除棄及ヒ停止スル原由〕

本章ニハ第二千二百二十九條期滿得免ノ著名ナル元則ヲ掲載セリ余  
ハ先ツ除棄ト停止トノ區別ヲ説カン

抑期滿得免ノ經過ノ除棄第一款トハ既ニ經過シタル時日ヲ除去シ更ニ此

時ヨリ期滿得免ノ日ヲ起算スル者ナリ期滿得免ノ停止第二款トハ既ニ

經過シタル時日ヲ其儘存シ置キ一時其時日ノ經過ヲ中止シ再ヒ之ヲ

合算スル者ナリ

〔第二千二百四十二條〕

三四  
期滿得免ノ除棄分テ之ヲ二種ト爲ス一ハ自然ノ除棄一ハ法律上ノ除  
棄ナリ而シテ此二種ハ以下ノ二ヶ條ニ之ヲ指示セリ



## 〔第二千二百四十三條〕

自然ノ除棄ト名ツクル所以ハ立法者ノ制定ヲ俟タスシテ瞭然ナレハナリ即チ一年以上ノ時間占有ノ權ヲ奪ハレタル時ハ之ヲ自然ノ除棄ナリトス其一年以上ノ時間ト定メタル者ハ蓋シ占有ノ權ハ一年ヲ過クレハ之ヲ得可キ者ナレバナリ

余ハ今年ヲ過クレハ占有ノ權有リト説明セシカ其占有ノ効力ハ恰モ三十年ノ期滿得權ノ効力ト同一ナルヤ曰ク否反對ノ證有レハ再ヒ之ヲ奪取スルヲ得ル者ナリ

自然ノ除棄有レハ又必ス期滿得免ノ斷絶有リ而シテ斷絶有ルモ自然ノ除棄無キ者有リ今二三ノ例ヲ舉ケン

茲ニ占有者有リテ十ヶ月間其占有ノ所爲ヲ爲サ、レハ期滿得免ノ斷絶有ルノミニテ除棄ハ有ラサルナリ

又所有者及ヒ其他人ノ中何レモ品物ヲ所有セス占有者モ亦十ヶ月或ハ十五ヶ月間其占有ノ所爲ヲナサ、ル場合モ亦同様ナリ之ニ反シ人ノ不動産ヲ占有シ再ヒ之ヲ他人ニ十五年間貸渡シタル時ニハ期滿得免ノ除棄有リテ斷絶ハ有ラサルナリ

## 〔第二千二百四十四條〕

法律上ノ除棄中其三ハ本條ニ其四ハ第二千二百四十八條ニ載示セリ  
第一ハ裁判所呼出ノ事ナリ法律ハ此呼出シノ事ヲ或ハ「シタシヨ」本條ニ用フル所ノ者或ハ「アスシヨ」或ハ「ヤシヨ」〔第二千二百四十七條ニ見ユ〕或ハ「エండレルペラシヨ」〔第二千二百四十九條ニ見ユ〕ト云フテ各其語ヲ異ニセリト雖モ到底裁判所呼出シノ事ナリ唯「シタシヨ」ノ字ハ下等ノ裁判所ニ之ヲ慣用ス

蓋シ此呼出狀ハ公吏即チ使吏ノ製スル所タリ若シ然ラストスル時ハ

六四

其呼出シテ受ケタル者ハ訟庭ニ出頭セサルモ計リ難カル可シ  
 裁判呼出狀ノ既ニ經過シタル時間ヲ除棄スルハ是自然ノ勢ナリ何ト  
 ナレハ占有者ノ安穩ヲ妨ケ而シテ法律ノ推測ヲ破斷セシムレハナリ  
 然レモ余ハ後ニ此裁判呼出狀ハ未必ノ條件ナルノ事ヲ説明セントス  
 第二ハ義務ヲ行フ可キ要決ノ書ナリ此書ハ二箇ノ執行力ヲ有セル者  
 ニシテ即チ夫ノ公正證書ノ類是ナリ督促書ナル者有レモ裁判呼出以  
 前ニ行フカ故ニ期滿得免ノ時間ヲ除棄スル程ノ効力ハ有ラサルナリ  
 第三ハ財産差押ナリ義務者上ノ要決ノ書ヲ受ケテ猶承服セサル時ハ  
 即チ使吏其動産不動産ヲ差押ヘス人有リ或ハ日ハ二箇ノ書既ニ期  
 滿得免ノ時間ヲ除棄ス何ソ其後日ニ執行スル所ノ財産差押ヘチシテ  
 其時間ヲ除棄セシムルニ及ハンヤト然リト雖モ此批難ニハ二箇ノ辯  
 明有リ即チ市場ノ差押ヘ 訴訟法第八百 借家人ノ動産差押ヘ 同第八百  
 二十二條參觀 十九條第

二項 又爲換手形差押ヘ 商法第七百七 等ノ如ク要決ノ書ヲ用ヒサル場合  
 參觀 十二條參觀 有リ又八日或ハ六十日ニテ期滿得免有ル場合ニハ前後 要決ノ書及ヒ  
 フ 二條ノ除棄實ニ緊要ナル者タリ 財產取押チ云

〔第二千二百四十五條〕

本條ハ權利者若クハ所有者ヲ保助スルノ意ニ出テタル者ナリ蓋シ勸  
 解ニハ若干ノ時日ヲ費スカ故ニ其間義務者ニ於テ期滿得免ノ權ヲ得  
 ントスルノ場合ニハ裁判呼出狀ヲ以テ之ヲ除棄セントスルモ既ニ遲  
 シ是ヲ以テ法律ハ勸解呼出ノ日ヨリ期滿得免ノ時間ヲ除棄スル者ト  
 セリ

〔第二千二百四十六條〕

七四  
 本條ニ掲グル所ハ管轄外ノ裁判呼出シノ事ナリ故ニ期滿得免ノ時間  
 ヲ除棄スル者ニ非サルニ似タレ凡ソ裁判管轄ノ事タル至難ニシテ

各人ノ容易ニ明知シ得可キ者ニ非ス而シテ之ヲ罪スルハ法律ノ好ム所ニ非サルカ故ニ設令管轄外ノ裁判呼出シト雖モ猶期滿得免ノ時間ヲ除棄スル者ト規定セリ蓋シ新タニ管轄裁判所ニ呼出シテ要スルハ勿論ナリトス

*（第二千二百四十七條）*

期滿得免ノ時間ヲ除棄セサル場合四有リ

第一ハ裁判呼出狀其法式ニ背キタル時

抑呼出狀ノ法式タル載セテ訴訟法ニ在リ而シテ其法式甚々鮮シト云フヲ得ス是ヲ以テ訴訟人ニ於テモ容易ニ之ヲ探知シ難シ故ニ其法式ニ違フモ亦深ク咎ム可キニ非ス然ルチ本條ニ於テ其法式ニ戻ル呼出狀ハ期滿得免ノ時間ヲ除棄スルノ効力無シトセリ之ヲ前第二千二百四十六條裁判管轄違ヒノ呼出狀ノ時ニ比スレハ全ク其理由ヲ同シツ

スルニ似タリト雖モ又他ニ本條ヲ正當ニ解明スルノ術有リ凡ソ裁判呼出狀ノ法式ハ訴訟人ノ代理人タル使吏之ヲ整理調合ス使吏ニシテ法式ヲ知ラストスルヲ得ス若シ法式ニ違フ時ニハ使吏即チ代理人ノ罪ナリ而シテ代理人ノ罪ハ本人之ヲ被ムルハ一般ノ通則ナリ故ニ本條ニハ法式ニ違フタル呼出狀ハ期滿得免ノ時間ヲ除棄スルノ効無シトセリ

第二原告人其訴訟狀ヲ願下ケタル時

余ハ前ニ裁判呼出狀ノ期滿得免ノ時間ヲ除棄スルハ未必ノ條件ナリト云ヘリ即チ本項原告人其訴訟狀ヲ願下ケタル時ノ如ク裁判呼出狀ニ於テ時間ヲ除棄スルノ効無キ場合有ルヲ以テノ故ナリ要スルニ訴訟願下ケハ裁判呼出狀無キ者ト一般ナリ

第三訴訟期限ヲ經過スル時

原告ヨリ出訴シタル事件ヲ三年間捨置キタル時ハ是則チ黙諾ノ訴訟

願下ケナリ故ニ裁判呼出シ無キ場合ト同一ノ者トス 訴訟法第三百九十七條參觀  
第四訴狀却下ノ時

本項ノ事タル唯一目シタル所ニテハ實ニ簡易明瞭ナルニ似タレトモ深ク之ヲ玩索スレハ至難ノ事ヲ醸生スルニ似タリ蓋シ訴狀ヲ却下スルハ則チ原告人失敗ノ時ナリ是ヲ以テ被告人ニ於テハ既ニ裁判ヲ經タルニ因リ期滿得免ヲ主張スルニ及ハサルニ未項特別ニ期滿得免ノ經過シタル時間ヲ除棄セスト規定セシカ故ナリ然リト雖モ又原告人他ノ原因ヲ引テ起訴スルノ場合無キニ非サルヲ以テ法律ハ此一項ヲ設ケタリ

〔第二千二百四十八條〕

本條ニハ期滿得免ノ既ニ經過シタル時間ヲ除棄スル第四ノ方法ヲ示セリ

前條ニハ訴訟ノ既ニ起生シタル場合ヲ云ヒ本條ニ掲クル所ハ未ダ其起ラサル場合ナリ且ツ第二千二百二十條(豫メ期滿得免ノ權ヲ拋棄スルヲ得ス云々)ノ法文ト之ヲ混視ス可カラズ然リト雖モ新タニ經過シタル三十年ノ後ニ之ヲ拋棄スルヲ得ルハ猶本條ニ於テ義務者其義務ヲ認諾シタル後三十年ヲ經過セハ期滿得免ノ權ヲ得ルト全ク同一ナリ論者有リ義務ノ認諾有レハ即チ請願ニ因テ其物件ヲ占有スル理ナリ故ニ認諾ノ後更ニ三十年ヲ經過スルト雖モ期滿得免ノ權ヲ得ル無シト云ヘリ然レモ余ハ其誤見タルヲ知ル何トナレハ請願ノ時ニハ必ス其證書無カラサルヲ得ス而シテ本例ニハ此證書無シ故ニ再ヒ期滿得免ノ權ヲ得ルニ於テ毫モ妨ケ有ル無シ

〔第二千二百四十九條〕

本條ノ法意ハ第千二百六條連帶ノ義務ノ條ト一般ナリ唯本條ニ載ス

ル所ハ少シク完備セリ何トナレハ遺物相續人ノ場合ヲ加ヘ且ツ義務  
認諾ノ一事ヲ増シタレハナリ

本條ノ二項三項及ヒ四項ハ容易ニ説明シ難シ故ニ深ク注視ス可キナ  
リ其記スル所ノ主旨ハ遺物相續人ハ先人ノ代理ナリ決シテ相續人相  
對ノ代理ニ非ス今二三ノ例ヲ舉ケテ以テ之ヲ解説ス可シ  
茲ニ甲乙丙ノ連帶義務者有リ甲者ハ丁戊己ノ相續人ヲ遺シテ死セリ  
而シテ此義務者ノ一人ナル乙者若クハ丙者訴訟ヲ受ク此場合ニハ乙  
丙ハ勿論甲者ノ相續人ナル丁戊己ニ對シテ其期滿得免ノ權ヲ得可キ  
期限ノ既ニ經過シタル時間ヲ除棄ス第一其相續人ノ一人ナル己者訴  
訟ヲ受ク此場合ニハ丁戊己ニ對シテハ期滿得免ノ時間ヲ除棄スル無シ  
唯負債ノ三分ノ一ニ付キ己者ニ對シテ除棄スルニ止マリ第二乙者及ヒ  
丙者モ各三分ノ一ニ付キ既ニ經過シタル時間ヲ除棄ス第三丁戊己共

ニ訴訟ヲ受ク此場合ニハ連帶義務者及ヒ總テノ相續人ニ對シテ既ニ  
經過シタル時間ヲ除棄ス第四分ツ可カラサル義務ノ如キハ連帶義務  
者ト相續人トヲ問ハス其中一人ヲ訴ヘハ即チ既ニ經過シタル時間ヲ  
除棄スル者トス

〔第二百五十條〕

債主若シ負債者ヲ訴ヘタル時ハ其保證人ニ對シテモ期滿得免ノ既ニ  
經過シタル時間ヲ除棄スト雖モ若シ其保證人ノミヲ訴ヘタル場合ニ  
於テハ保證人ハ決シテ負債者ノ地位ヲ毀傷ス可カラサルカ故ニ負債  
者ニ對シテ期滿得免ノ既ニ經過シタル時間ヲ除棄スル無シ若シ又保  
證人其負債ヲ認諾シタル時ト雖モ其代償ヲ本人ニ乞フヲ得ス到底己  
ノノ損失ナリ

ボアツナ 佛蘭西民法期滿得免篇講義第五號 明治十二年八月三日

井田鐘次郎 筆記

余ハ會テ期滿得免ノ事ヲ講スルニ際シ中止ト破斷トノ語ヲ發シ且ツ  
其意義如何ヲ述ヘタルニ因リ諸君ハ略之ヲ知了セル者ト信スルナリ  
蓋シ此二箇ノ語タルヤ世俗ニ於テハ通常之ヲ同一ノ義ニ解シ敢テ彼  
此ノ別ヲ立ツル無シ本日ノ演說ハ之ヲ中止ス本日ノ講義ハ之ヲ破斷  
ト又ハ彼ノ事業ハ破斷セリ彼ノ爭論ハ中止セリト云フカ如キハ皆之  
ヲ同一ノ義ニ用ユル者トス然レモ法律上ニ於テハ二者皆其義ヲ異ニ  
セリ是法文ニ二箇ノ款有リテ之ニ別々ノ規則ヲ供スルヲ以テ知ル可  
キナリ

五五

破斷トハ期滿得免ヲ妨碍スル所爲ニシテ其効ヤ前既ニ經過セシ時間  
ヲ不用ニ屬セシムルニ在リトス中止モ亦期滿得免ヲ妨碍スル者ト雖



六五

モ前ノ時間ハ不用ニ屬セヌシテ後ニ經過セル時間ト相合シテ期滿得免ノ完全ナルニ至ルヲ妨ケサル所爲ヲ云フ是ニ由テ考フレハ中止ノ語ハ停滯ノ語ニ換ユルヲ善シトス故ニ期滿得免ノ破斷セラル、時ハ前既ニ經過セシ時間ハ悉ク無益ト成ルニ因リ又更ニ法律上要スル所ノ期限ヲ經過セシメサルヲ得テ中止ニ至テハ則チ然ラズ其期滿得免ヲ妨碍スル所ハ唯一時其經過ヲ止ムルニ過キサルヲ以テ其所爲ノ効消滅スルニ及ヒテハ現ニ殘レル時間ノ經過スルノミニテ期滿得免ハ自カラ完全ナルノ期ニ達スルニ至ラン

破斷ト中止ハ占有者若クハ義務者ニ取リテハ何レカ最モ害少キ者ナルヤ諸君若シ此語ヲ聞カハ必ス中止ニ害少クシテ破斷ニ害多クシト思フナル可シ然レモ是至ク皮相ノ淺見ノミ蓋シ破斷ニ害多クシテ中止ニ害少キ事ハ屢ハ之有リト雖モ亦然ラサル者無シトセス請フ之ヲ論

七五

セシ例ハ茲ニ不動産ヲ占有スル四五年ニ及ヒシ者有リ所有者其不動産ノ他人ニ占有セラル、ヲ知テ取戻シノ訴ヲ起シ又ハ之ヲ差押ヘ又ハ之ニ要訣ノ書ヲ送達シ其所爲ニ因リ期滿得免ヲ破斷シタリ期滿得免ハ斯ク破斷セラレタリト雖モ其所爲止ムヤ否ヤ直チニ經過シ始ムレハ占有者ノ失フ所僅カニ四五年ノ時間ニ於ケルノミトス然ルニ中止ニ至テハ期滿得免ノ經過ヲ妨碍スル二十年ノ久キニ及フ事有リ期滿得免ノ二三歳ナル幼者ニ對スル時ノ如キ即チ是ナリ蓋シ期滿得免ハ幼者ノ爲メ法律ニテ之ヲ中止スレハナリ此ノ如ク論スル時ハ破斷ニ害多クシテ中止ニ害少シトハ強チニ云フ可ラサルノミナラズ却テ破斷ニ害少クシテ中止ニ害多シト云フモ敢テ不可ナル無シ

右ノ例ニ反シ若シ期滿得免ヲ其經過ノ將ニ終ラントスルニ破斷スル時ハ占有者ニ取テハ不利益是ヨリ大ナルハ無シ何トナレハ又更ニ三

十年ノ時間ヲ經過セサレハ期滿得免ノ利益ヲ得ル能ハサレハナリ  
 之ヲ要スルニ破斷ハ期滿得免ノ始メニ之ヲ爲スト其終リニ之ヲ爲ス  
 ト占有者若シハ義務者ノ利害ニ於テ霄壤ノ差違有リトス又中止モ其  
 時間ノ長ク成ル場合ト短ク成ル場合トニ隨テ等シク利害無キ能ハス  
 故ニ破斷ハ中止ヨリ害多シトモ云フ可カラス又中止ハ害少ク破斷ハ  
 害多シトモ云フ可カラス唯場合ノ如何ヲ問フニ在ルノミ  
 余ハ前文ニ於テ法律ハ幼者ノ爲メ期滿得免ヲ中止スト云ヒシカス  
 云フ時ハ期滿得免ハ既ニ經過シ始メタル明ナレハ丁年者ニシテ再ヒ  
 幼者ト成ルカ如クナリトス然レモ是決シテ遭逢ス可カラサルノ場合  
 ナリ然ラバ幼者ノ爲メ期滿得免ヲ中止スルハ如何ナル場合ニ之有リ  
 ヤ曰ク幼者ノ其下年者タル父ニ相續シタル時是ナリ蓋シ相續人ハ其  
 先人ノ權利義務ヲ有リノ儘ニテ受續クニ付キ若シ法律上ニテ其權利

ノ期滿得免ニ係ル者有ルニ際シ其經過ヲ中止セスハ其相續人ハ其  
 先人ト等シク之ヲ失フノ効ヲ受ケサルヲ得サルナリ

余カ輩ハ是ヨリ期滿得免ヲ中止スル原因ノ如何ヲ見ル可シ  
 [第二千二百五十一條]

期滿得免ハ何人ニ對スルモ經過ス可キヲ以テ法律上一般ノ原則トス  
 故ニ法律ニテ例外ノ部ニ列セサル者ハ總テ其効ヲ受ケサル可カラス  
 因テ期滿得免ハ此人ニ對シ中止セラル、ヤ否ヤヲ知ラント欲セハ法  
 律ノ全部ヲ翻ヘシテ之ヲ搜索セヨ若シ何レノ處ニ於テモ其人有ルヲ  
 見出サスハ則チ期滿得免ノ此人ニ對シ經過スルヲ知ル可シ  
 中止ニ二箇ノ原因有リ曰ク人ノ分限 第五十一條ヨリ 第 曰ク義務ノ狀  
 態 第五十七條ヨリ 第 是ナリ  
 第五十九條ニ至ル 中止ノ原因タル分限ニ四種有リ幼者治産ノ禁ヲ受ケタル者婚姻シタ



ル婦專利相續人はナリ  
法律ニテ是等ノ人ニ對シ期滿得免ノ經過ヲ中止スル所以ハ單ニ之ヲ  
保護セシカ爲メノミ

〔第二千二百五十二條〕

本條ハ幼者及ヒ治産ノ禁ヲ受ケタル者ニハ期滿得免ノ經過セサル旨  
ヲ定ム

前條ト本條ノ書方ニ宜シカラサル者有リ請フ此兩條ノ例外ノ語ニ注  
意セヨ等シク例外ノ語ナリ而シテ其係ル所別箇ノ事項ニ非スヤ蓋シ  
前條ノ其語ハ期滿得免ノ總則ノ例外即チ中止ノ場合ヲ云フト雖モ本  
條ノ其語ハ中止ノ事ヲ云ハスシテ却テ其總則ニ入ル可キ場合ヲ述フ  
是書方ノ宜シカラサル所トス  
第千七百七十六條ニ此期限損害ヲ原因トシテ賣買ノハ婚姻シタル婦失  
契約ヲ取消ス可キ期限

踪者治産ノ禁ヲ受ケタル者及ヒ幼者ニ對シ經過ス可シト有ルニ因リ  
此條ヲ一見シタル所ニテハ失踪者モ幼者治産ノ禁ヲ受ケタル者ノ如  
ク期滿得免ノ事ニ付テ一般ノ保護ノ即チ中止ヲ受ケルカト疑ヲ起ス者  
有ル可シ因テ今茲ニ其疑ヲ起スニ足ラサル旨ヲ述ヘン失踪者ハ法律  
上多分ノ保護ヲ受クルニモセヨ 第一篇ノ民法ニハ期滿得免ノ事ニ管  
シ之ヲ保護スト云フ箇條有ル無シ然ラハ失踪者ハ期滿得免ノ事ニ付  
テハ其總則ノ効ヲ受ケルヤ明ナリ而シテ該條ニ幼者治産ノ禁ヲ受ケ  
ル者ノ一様ニ載セラルハ民法編纂者古法ヲ寫取リ之カ民法ノ規則  
ニ反スルヲ悟ラサリシニ根柢セリ

本條ニ付テ尙一言ス可キ者有リ余ハ前文ニ於テ法律ノ幼者及ヒ治産  
ノ禁ヲ受ケタル者ヲ保護スト云ヒシカ未タ其理由如何ヲ陳述セザリ  
キ因テ之ヲ茲ニ云ハシテ幼者又ハ治産ノ禁ヲ受ケタル者ニハ後見人有

リテ其諸般ノ事務ヲ擔任スルニ付キ一見シタル所ニテハ敢テ法律上ニテ之ニ對スル期滿得免ノ經過ヲ中止スルニ及ハサルカ如シト雖モ亦然ラサル事有リトス夫レ後見人タル者ハ其職ニ任セラル、ニ當テ幼者ノ身分及ヒ其權利義務等ヲ詳細ニ取調フルトモ或ハ其取調ヘニ洩ル、者無キニ非ス或ハ其取調後幼者ノ爲メ自カラ權利ノ生スル事モ有ル可シ又ハ幼者ノ後見人ニ告ケスシテ權利ヲ得ルノ所爲ヲ行フモ知ル可カラサレハ後見人ト雖モ爭テカ是等ノ事柄ヲ以テ自己ノ責ト爲スヲ得ンヤ既ニ後見人ノ責ニ任セサルトセハ期滿得免ノ事ヲ知ラサルガ又ハ之ヲ知ルモ之ヲ破斷スルヲ爲サ、リシ幼者ハ空ク其財産ヲ失ハサルヲ得ス豈憫マサル可ケンヤ是法律ハ幼者ノ爲メニ期滿得免ヲ中止スル所以ナリ若シ幼者ニシテ財産ノ禁ヲ受ケタル者ヲ相續シ又ハ治産ノ禁ヲ受ケタル者ニシテ幼者ヲ相續シ又ハ幼者ノ丁

年ニ達セントスルニ治産ノ禁ヲ受ケル等ノ時ハ期滿得免ノ中止セラ  
ル、ハ管ニ二三十年ニ止マラスシテ五六十一年間ニ及フ者有ル可シ左  
スレハ權利ニ曖昧ナル者生スルニ因リ伊多利亞國ニ於テハ其中止ノ  
時間ノ極度ヲ六十年ト定メリ又他ニ於テハ之ヲ四十年トスル所有リ  
〔第二千二百五十三條〕

法律上期滿得免ノ事ニ管シ夫ニ對シテ婦ヲ保護スルハ事實ノ已ム可カ  
ラサル者ナリ蓋シ夫婦婚姻ヲ爲スニ於テハ終身和合協睦シテ一生ヲ  
保テサルヲ得サレハ苟モ其間ニ於テ雙方ノ權利義務ノ損害セラレ、  
無カラシナキ期セサル可カラス然ルニ若シ夫婦ノ間ニ在テモ期滿得免  
ノ經過スル有ラハ其勢各々自己ノ損得ニ意ヲ注シニ因リ終ニハ偕老  
協睦ノ大本モ自カラ崩潰スルニ至ラン且ツ夫ハ自己ノ權下ニ婦ヲ支  
配スルヲ得可キ者ナレハ或ハ強暴以テ之ヲ脅迫シ或ハ權謀以テ之ヲ

籠絡シ之カ財産ヲ期滿得免ニテ自己ノ有ト爲スヲ圖ランモ知ル可カ  
 ラス法律ニテ夫婦ノ間ニ期滿得免ヲ中止スルハ蓋シ之カ爲メナリ  
 法律ノ婦ノ爲メニ期滿得免ヲ中止スルハ固ヨリ其原則トスル所ニ非  
 ス是他無シ婦ハ幼者治産ノ禁ヲ受ケタル者ノ如ク才知經驗ノ足ラサ  
 ル者ニ非サレハナリ故ニ本條ノ如キハ婦ニ取テハ一箇例外ノ規則ナ  
 リトス

〔第二千二百五十四條〕

幼者ハ期滿得免ノ事ニ付キ一般ニ保護ヲ受ク可シト雖モ婦ハ法律上  
 ニ定メタル場合ニ非サレハ保護ヲ受ケサル者トス故ニ此一點ヨリ論  
 スレハ本條ハ婦ニ管スル期滿得免ノ總則ヲ掲ケシ者ナリ  
 本條ニ婦ハ夫婦婚姻ノ契約ニ因リ又ハ裁判所ノ命令ニ因リ夫ト財産  
 ナ分ツ無シト雖モト有リ佛蘭西ニテハ財産ヲ嫁資トスルノ一種特別

ノ契約有リ此契約ニ於テハ夫ハ婦ノ後見人ト爲リテ其持來リシ財産  
 ナ支配ス是婚姻中ハ引續ク可シト雖モ若シ夫婦間ニ於テ不都合ノ生  
 スル時ハ夫又ハ婦ヨリ財産ヲ分ダント訴フルヲ得可キナリ斯ク訴ヘ  
 タル後之ヲ許スノ裁判言渡シテ受クル時ハ則チ之ヲ執行シテ財産ヲ分  
 ツ可ク既ニ財産ヲ分チ終ラハ婦ト雖モ自カラ其財産ヲ支配スルノ權  
 有リ今本條ノ定ムル所婦ハ初メヨリ財産ヲ分ツノ契約ヲ爲サハル時  
 又ハ一旦財産ヲ嫁資トシテ未タ之ヲ分ダサル時ト雖モ其財産ニ付テ  
 ハ總テ期滿得免ニ係ルヲ免ガル、無シト云フニ在リトス本條ノ雖モ  
 ノ語ヲ用ユル所以ハ財産ヲ分ダサル中ハ夫ニ於テ之ヲ支配スルヲ以  
 テナリ蓋シ法律ハ夫ノ之ヲ支配スル時ト雖モ期滿得免ハ婦ニ對シテ  
 經過ス可キ旨ヲ云ハント欲スルニ過キス是ニ由テ考フレハ財産ヲ分  
 チシ後即チ婦自カラ之ヲ支配スル後ハ期滿得免ノ經過スルハ固ヨリ

論ヲ俟タサル所ナリ但シ茲ニ一事ノ注意ス可キ者有リ即チ夫ノ財産ヲ支配スル中ニ期滿得免ノ經過シ終ルニ於テハ婦ハ夫ニ對シ損害ノ償ヲ請求スルヲ得ルモ事若シ自カラ財産ヲ支配スルノ後ニ在レハ他ニ其償ヲ求ムルノ方法無シトス

右ニ記スル所ヲ以テセハ法律ノ婦ト幼者ヲ保護スルニ於テ頗ル差異有ルヲ知ルニ足ル可シ

試ミニ問ハン婦ノ保護セラル、幼者ヨリ薄キ所以ノ者ハ何ソヤ婦ト云ヒ幼者ト云ヒ何レモ後見人有リテ自カラ其財産ヲ支配スル能ハサル者ナラスヤ然ルニ幼者ノ爲メニハ期滿得免ヲ中止シ婦ノ爲メニハ之ヲ中止セズシテ唯夫ニ其責ヲ負ハシムルノミナルハ抑何ノ故ナルカ曰ク幼者ハ才知經驗ノ足ラサル者タルニ因リ期滿得免ノ經過スル有ルモ之ヲ破斷スルヲ知ラサル無キニシモ非ス婦ハ之ニ反シテ能ク

其危キヲ察スルヲ得可ク而シテ之ヲ破斷スルノ必要ナル場合ニ臨マハ夫ニ勸メテ其事ヲ行ハシメ若シ夫ノ之ヲ行フヲ肯セサル時ハ裁判所ノ許可ヲ得テ自カラ處分スル所有ル可キナリ之ヲ要スルニ婦ハ幼者ト違ヒ期滿得免ノ事ニ付テハ自カラ其責ノ一部ニ任セサルヲ得サルナリ

〔第二千二百五十五條乃至第二千二百五十六條ノ第一項〕

是ハ諸君ノ未ダ會テ聞知セサル夫婦資財ノ契約ヲ説明セスンハ解シ難キ者ナルヲ以テ余ハ暫ク之ヲ不問ニ附ス可シ

〔第二千二百五十六條第二項〕

時有リテハ夫其婦ノ承諾ヲ得ル無クシテ其財産ヲ賣拂ヒ又ハ贈遺シテ保證人ト成ル有リ是他人ノ物件ヲ讓渡ス者ナリ因テ其契約ハ無効ナリトス然レモ其財産ノ所有者タル婦訴ヲ起シテ之ヲ取戻サンカ買

主ハ夫ニ對シ損害ノ償ヲ請求スルニ付キ夫ハ之カ爲メニ迷惑ヲ被リ  
隨テ夫婦和合ノ本義ニ害有ル可シ然ラハ婦ハ之ヲ傍觀シテ已マンカ  
是空シク財産ヲ人ニ奪ハル、ナリ此場合ニ在テハ婦タル者ハ進退維  
谷マレリト云フ可シ因テ法律ハ婦ヲ保護セントシテ本項ノ規則ヲ設  
ケ總テ婦ノ訴權ノ夫ニ反動スル時ハ解縁ノ期ニ至ル迄婦ニ對スル期  
滿得免ヲ中止ス可シト定メタルナリ

〔第二百五十七條〕

本條ハ期滿免除ノミニ管スル者ナリ而シテ其擧クル所ハ期滿免除ヲ  
中止スル義務ノ狀態ナリトス

法文ニ期滿免除ヲ中止スル三箇ノ場合ヲ掲クト雖モ要スルニ二箇ノ  
場合ヲ擧クルニ過キス即チ權利ニ未必ノ條件ノ附帶セル時及ヒ期限  
ノ附帶セル時はナリ

余契約ノ効ヲ停止スル未必ノ條件ニ付テ權利ヲ得タリ此時ハ其權利  
ハ未ダ生セサル者ナリ故ニ期滿免除ハ此權利ニ對シ經過スルナリ而  
シテ其經過スルハ之カ生シタル時ヨリ以後ニ在リトス

本條第二項ノ場合ハ他人ヨリ取戻シヲ爲ス有ルニ於テハト云フ未必  
ノ條件ニ管スルヲ以テ即チ第一項ノ場合ニ入ル可ク蓋シ賣買ヲ爲シ  
タル時ノ如キ賣主其買主ニ對シ其賣物ノ自己ノ所有タルヲ保證スル  
ニ因リ他人ノ來テ取戻シヲ爲ス時迄ハ幾年ノ久キニ及フモ買主ノ賣  
主ニ對シ保證ヲ爲サシムルノ權ハ決シテ消滅スルノ理有ル可カラサ  
ルナリ何トナレハ其權ハ其時迄生セサル者ナレハナリ

第三項ハ權利ニ期限ノ附帶セル場合ヲ掲ク此時ニ於テハ權利ハ既ニ  
生シタリト雖モ未ダ之ヲ執行ス可キノ期ニ達セサレハ其期ニ至ル迄  
ハ法律ニテ義務者ハ之ヲ消滅セリ是權利者ハ其執行ヲ得シナラント

推測スルヲ得サレハナリ

〔第二千二百五十八條乃至第二千二百五十九條〕

此二箇ノ條ハ人ノ分限ト權利ノ状態トヲ合シテ期滿得免ヲ中止スルノ原因ト爲セリ

佛蘭西ニ於テハ相續人ト雖モ死者ノ資産ヲ相續スルヲ要セサルノ法有リ蓋シ死者ニ負債ノ多キ時ハ之ヲ相續シテ却テ損失ヲ受クルノ事有ル可キガ故ナリ然レモ相續スルト相續セサルトハ財産ノ取調ヘテ爲シタル後ニ非サレハ往々決シ難キノ場合有ルヲ以テ法律ハ一箇ノ折中法ヲ設ケ死者ノ負債ノ額ニ至ル迄其資産ヲ相續スルヲ許セリ是之ヲ專利ノ相續人ト云フ此相續人ハ死者ノ財産ヲ支配スルノ義務有リ專利ノ相續人ニシテ死者ノ權利者タル時ハ法律ハ其權利ニ對シ期滿免除ヲ中止ス是專利相續人ハ自己一身ニテ遺留財産ノ權利者ト支配

人トヲ兼ヌルニ因レリ然レモ專利相續人ニ非サル遺留財産ノ權利者ニハ期滿免除ハ經過スル者トス而シテ其經過スルハ遺留財産ニ相續人モ無ク又支配人モ無キ時ニ於テモ猶異ナル無シ又遺留財産ノ相續人ハ其財産ノ目錄ヲ作爲スルニ三ヶ月ノ期限ヲ有シ又相續スルト否トヲ議定スルニ四十日ノ期限ヲ有スルト雖モ期滿免除ハ其間ニ於テ經過ス可キ者トス

ボアソナ 佛蘭西民法期滿得免篇講義第六號 明治十二年八月六日

一瀬勇三郎 筆記

〔第五章 期滿得免ノ權ヲ得ルニ必要ナル期限〕

〔第一款 總規則〕

本日ハ講義ノ終會ナレハ尙殘ル所ノ箇條擧ガラス、余ハ細密ニ各條ヲ講說セント欲スレハ其時間無キヲ如何セン、故ニ唯其要領ヲ舉ケテ諸君ニ告クルニ過キサル可シ、請フ之ヲ諒セヨ

〔第二千二百六十條乃至第二千二百六十一條〕

此二箇條ニ付テハ別段説明ス可キ事無シ蓋シ諸多ノ詞訟ヲ豫防センカ爲メニ記定セル法章ナリ

三七 第二千二百六十一條ニハ明カニ期限ノ最終ノ日ヲ記セリト雖モ其最初ノ日ヲ記セス、期限ノ最初ノ日ハ之ヲ算ス可キ乎、將々之ヲ算入ス可

ガラサル乎、蓋シ此問題ハ古今學士ノ論難スル所ニシテ當今未タ一定ノ説有ラサルカ如シ、然レモ余カ説ヲ以テ之ヲ觀レハ期限ノ初日ハ必ス共ニ之ヲ算入セサル可カラサル者ノ如シ、何トナレハ其權利者若クハ所有者ハ此初日ヨリ出訴スルノ權有ルヲ以テナリ

〔第二款 三十年ノ期滿得免ノ權〕

〔第二千二百六十二條〕

本條ニ記スル所ノ人權及ヒ物權ニ付テノ訴訟ハ總テ三十年ヲ以テ期滿得免ノ權ヲ得可キ期限トスト云フハ一般ノ原則ナリ、特別ノ法章ヲ設ケテ特別ノ期滿得免ノ權ヲ定メサル時ハ必ス三十年ヲ以テ其期限トス、又本條ノ但シ書ニ記スル所ハ專ラ期滿所得ノ權ニ管シテ定メタル者ナリ、善意ヲ以テ物權ヲ所得スル者ハ尙短キ期限ニ因リテ期滿得免ノ權ヲ得、後條ニ之ヲ詳記ス、人權ニ付テハ別段其善意ナルト惡意ナ

ルトヲ區別スルヲ要セス

〔第二千二百六十三條〕

本條ニ記載セル年金ノ事ニ付キ一言述フ可キ者有リ、蓋シ通常貸借等ノ場合ニ於テハ權利者ハ固ヨリ其元金ヲ要求スルノ權有リト雖モ之ニ反シテ年金ヲ得可キ權利者ハ常ニ其元金ヲ要スル能ハス、故ニ若シ權利者ヨリ更ニ一箇ノ證書ヲ請取ラサル時ハ必ス期滿得免ヲ經過ス可キヲ以テ自カラ其年金ヲ求ムル能ハサルニ至ル可キナリ、是本條ノ設定アル所以ナリ

〔第二千二百六十四條〕

本條ハ別段説明スルニ及ハス

〔第三款 十年ト二十年トノ期滿得免ノ權〕

〔第二千二百六十五條〕



凡ソ不動産ヲ占有スル者ハ其所在ノ控訴院管内ニ住スルト否トニ從ヒ十年若クハ二十年ヲ以テ期滿得免ノ權ヲ得ル者ナリト雖モ必ス本條ニ明定セル二箇ノ要件ヲ遵奉セサル可カラス、即チ善意及ヒ正當ノ名義是ナリ、善意ノ何者タル事ハ余既ニ第五百五十條ノ場合ニ於テ之ヲ講述セリ、重複ニ屬スルヲ以テ今之ヲ略ス、正當ノ名義無クシテ其物件ヲ占有スル者ハ必ス善意無キ者ナリ、之ニ反シテ正當ノ名義有リト雖モ必スシモ惡意無シト云フヲ得ス

法律ハ又其不動産所在ノ控訴院管轄ノ内外ニ隨テ其期限ヲ十年トシ又之ヲ二十年トスルト雖モ唯其内外ノ差ヲ以テ纔カニ其期限ヲ倍スルト云フハ敢テ之ヲ適正ノ成條ナリト認ムルヲ得ス然レモ法ノ明文有リ、之ヲ如何トモスル能ハス、實際上ニハ必ス此定限ヲ遵奉セサル可カラス

〔第二千二百六十六條〕

本條ハ殊更ニ講説ス可キ事無シ

〔第二千二百六十七條〕

凡ソ公式ヲ要スル事件ニシテ之ヲ缺キタル者ハ十年又ハ二十年ノ期滿得免ノ權ヲ得可キ憑據ト爲ス可カラス、蓋シ公式ヲ要スル事件トハ贈與ノ契約及ヒ書入質ノ契約ノ如キ者ヲ云フ

〔第二千二百六十八條〕

本條ニ依レハ凡ソ期滿得免ノ權ヲ得ル者ハ通常善意ヲ以テ之ヲ得タリト推測ス可シト云フ、之ヲ推測スルニ二箇ノ理由有リ、先ツ常ニ人ノ思想ヲ證スルハ、實際難キ事ナリ、次ニ人ノ性ハ善ナリト云フヲ以テ常トス、性ノ惡ナルハ異常ナリ、但シ法律ハ其反對ノ證ヲ立ルヲ許ルスナリ

〔第二千二百六十九條乃至第二千二百七十條〕

此條ハ別段余カ説明ヲ要セスシテ可ナリ、蓋シ一ハ期滿所得ニ管スル者ニシテ、他ノ一ハ期滿免除ニ管スル法章ナリ

〔第四款 別段ノ期滿得免ノ權〕

〔第二千二百七十一條〕

本條モ期滿免除ニ管スル法章ナリ、別段講説スルヲ要セス

〔第二千二百七十二條乃至第二千二百七十四條〕

此條モ亦別段説明スルニ及ハス

〔第二千二百七十五條〕

本條ハ至極緊要ナル法章ナリ、余ハ既ニ先會ニ於テ三十年ノ期滿得免ノ權ハ確乎タル推測ニ基シテ以テ何レノ反證有リト雖モ更ニ之ヲ破回スル能ハサル旨ヲ論定セリ、是レ蓋シ一般ノ公益ニ管スル者ナルヲ

以テ然ルナリ、今本款ニ記列セル期滿得免ノ權ハ悉ク僅々ノ期限ヲ以テ之ヲ得ル者ナルカ故ニ本條第一項ニ於テ誓詞ヲ以テ其反證ヲ立ルヲ認許シタルハ當理ノ法制ト云フ可キナリ、本條第二項ニ記載セル事柄ハ既ニ誓詞ヲ講説スル時ニ之ヲ詳説セシテ以テ今之ヲ省略ス

〔第二千二百七十六條乃至第二千二百七十八條〕

此條ハ別段説明ス可キ事無シ

〔第二千二百七十九條〕

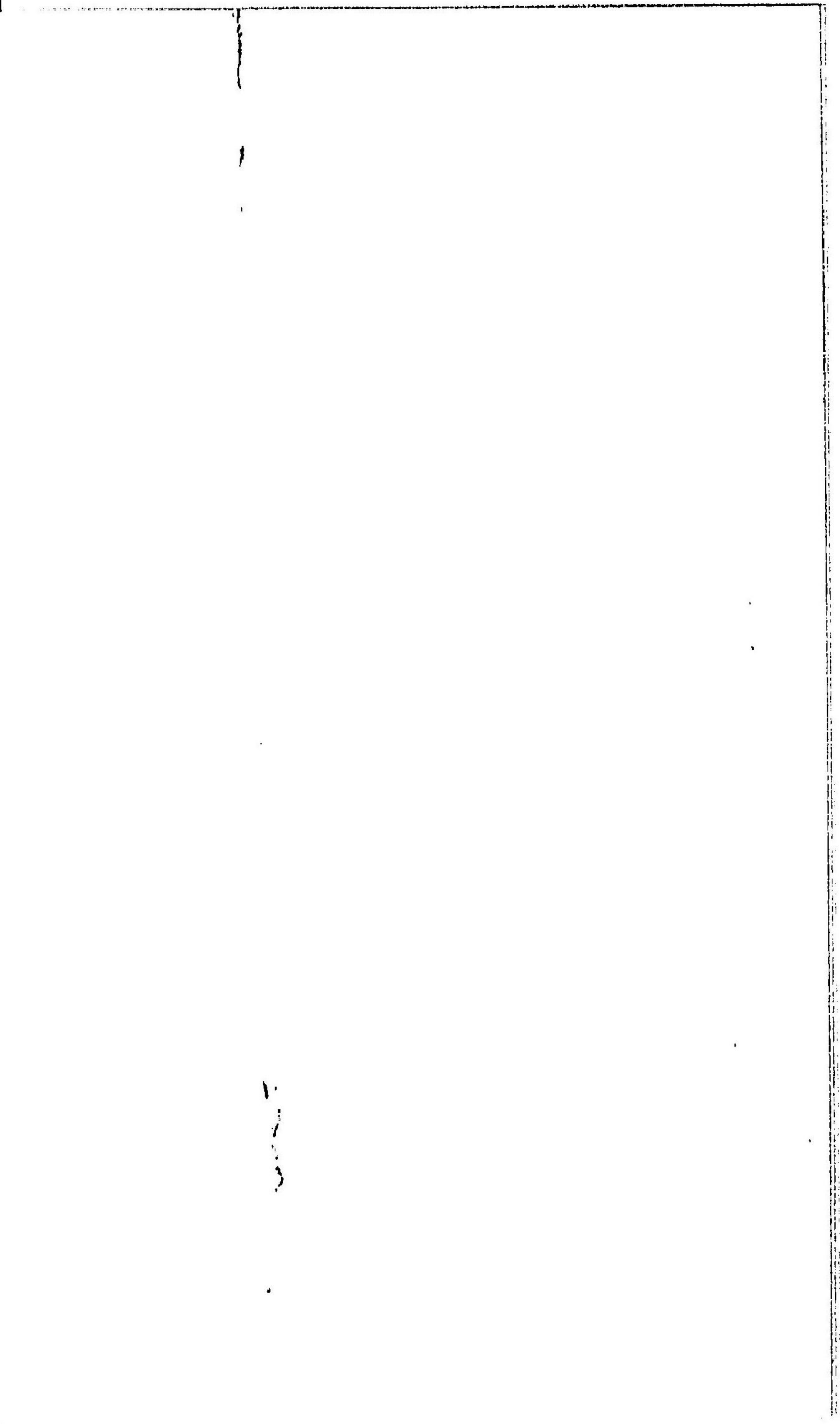
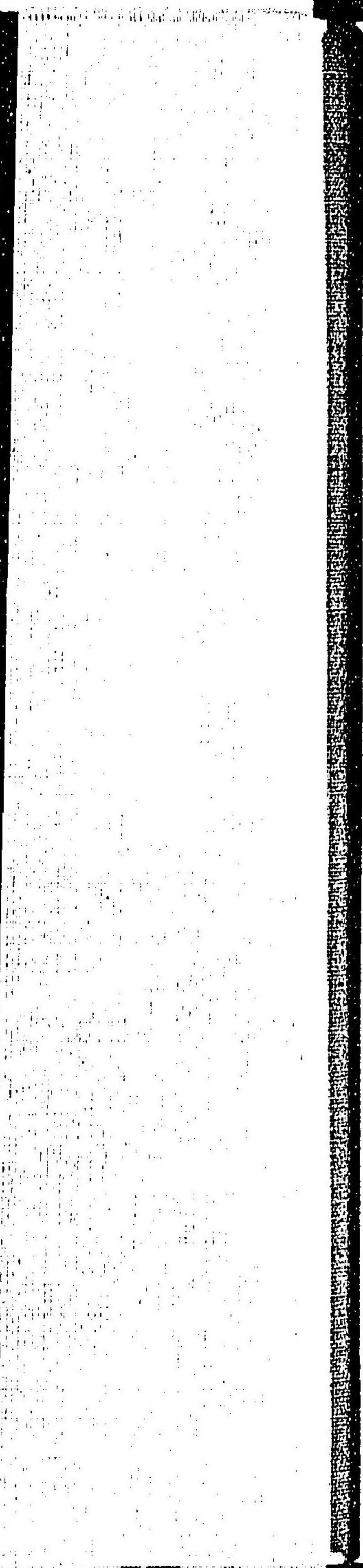
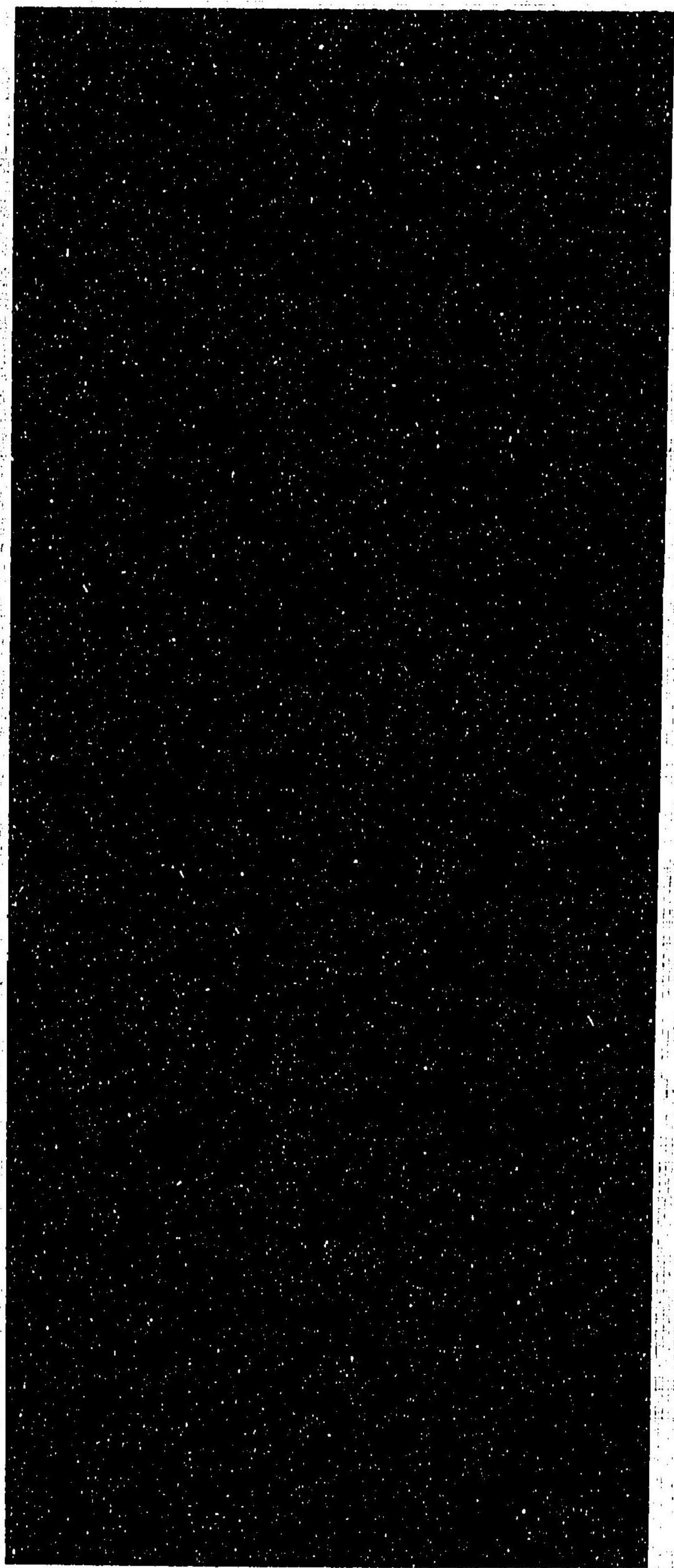
本條第一項ニ記スル所ノ法則ハ既ニ屢舉示辯明セシ者ナリ、蓋シ緊要ナル法條中ノ一ナリ、今本項ニ記スル所ノ占有トハ何レノ要件ヲ供ヘタル者ナルヤヲ討究スルニ動産ノ期滿得免ハ前段ニ陳ヘタル期滿得免トハ大ニ異ナル所有リテ動産ニ付テハ即時ノ期滿得免ナリト云フノ法定ナルヲ以テ前條ニ述ヘタル要件中彼ノ繼續シテ物件ヲ占有ス

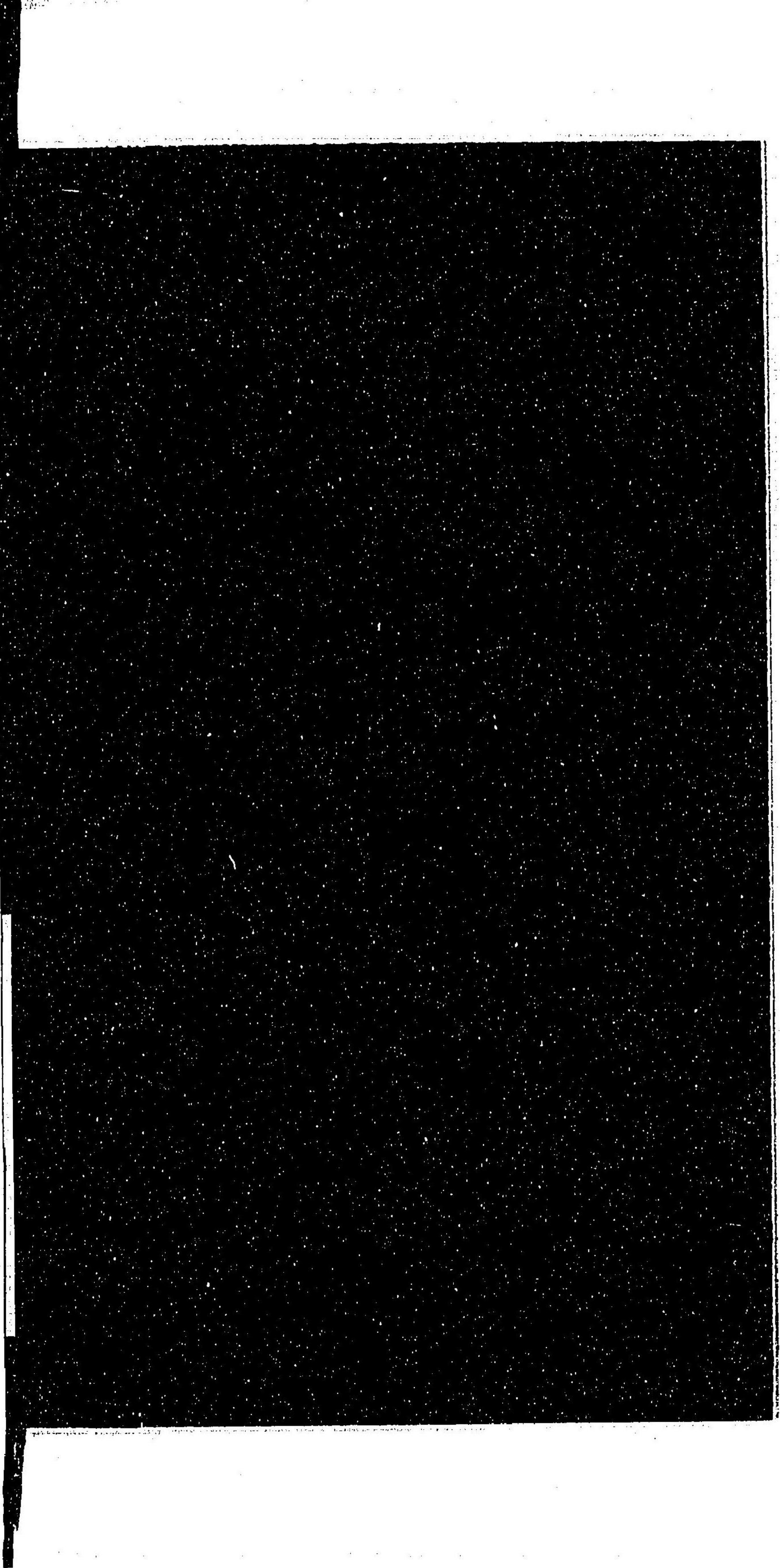
可シト云フノ要件及ヒ期限ヲ除。棄スル無ク其物件ヲ占有ス可シト云  
 フノ要件ハ敢テ之ヲ遵守スルヲ要セサルナリ。特リ彼ノ安然ニ之ヲ占  
 有ス可シト云フノ要件ト公然ニ之ヲ占有ス可シト云フノ要件トハ必  
 ス之ヲ遵奉セサル可カラス、且ツ正當ノ名義ト善意トハ必ス亦缺ク可  
 カラサルノ要件ナリ、他ハ是迄數度講説セシヲ以テ此ニ之ヲ省略ス  
 本條第二項ニハ第一項ノ例外ヲ記セリ曰ク然レモ動産ヲ見失ヒ又ハ  
 之ヲ盜取セラレタル者ハ之ヲ有スル者ニ對シ其日ヨリ三年ノ間其取  
 戻ヲ求ムルヲ得可シト此法文ニ由リ或ハ第一項ノ原則ハ不要ニハ屬  
 セサルカト疑惑スル者有ル可シト雖モ若シ物件ノ借主又ハ其相續人  
 之ヲ他人ニ賣却シタリト想像セハ決シテ本文ノ無要ニ屬セサルヲ詳  
 認スルニ難カラサル可シト

[第二千二百八十一條乃至第二千二百八十二條]

此條ハ別段説明ス可キ事無シ

END-64





民法期滿得免篇講義

25

511

国立国会図書館

034413-000-0

25-511

民法期滿得免篇講義

ボアソナード/述

M13

BBL-0968

